

阪神・淡路大震災 20年の歩み

1995~2015



兵庫県書店商業組合

はじめに

兵庫県書店商業組合 理事長 山根金造

1995年1月17日午前5時46分。激しい揺れの後、自分の命が助かったことにほっとし、家族の安否を確認して、次に従業員は無事か、店はどうなったのか、自宅は、倉庫は、と心配でおろおろするばかりでした。

そんな私たちを助けてくださったのは、まずは、取引のある取次店の皆様でした。そして、読者の皆様や出版社の担当者の皆様の声援で、やっと前を向くことができました。

1週間後の1月24日には、出版業界をあげて、日本書店商業組合連合会に義援金の窓口を開設していただき、各県の書店商業組合の皆様、出版社様、取次会社様より多額のご支援を、私たち兵庫県の被災書店に賜りました。本当にありがとうございました。

早いもので2015年1月17日には阪神・淡路大震災から20年を迎えます。20年前、兵庫県書店商業組合は、組合員311名、店舗数372店でした。現在は、組合員134名、店舗数は160店です。日本の書店業界にとって、20年という年月は、激動の時代でした。

20年を迎えるに当たり、当時陣頭指揮をとってくださった組合の先輩からの助言を受け、『阪神・淡路大震災 20年の歩み』の作成を、取次会社の皆様、出版社の皆様のご協力を進める運びとなりました。

本誌の発行によって、当時義援金を賜りました全国の書店商業組合、出版関係団体や企業の皆様に感謝の思いを伝えたいと存じます。さらに、東日本大震災はじめ頻発する自然災害で被害を受けた書店様の励ましとなり、出版・書店業界の非常時に少しでも役立つことができれば幸甚です。

目次 CONTENTS

- 2 — 写真で見る阪神・淡路大震災
- 6 — 座談会 もっと、書店と地域のつながりを深めよう
- 15 — 被災と支援の記録
- 26 — 取次会社の奮闘
- 28 — 復旧から復興へ、兵庫から発信
- 30 — 22人のメッセージ
- 42 — 年表（1995年～2014年）
- 44 — 阪神・淡路大震災20年ブックフェア出品の本
- 45 — 兵庫県書店商業組合 全会員名簿
- 48 — あとがき

激震で崩壊、機能不全に陥った都市

写真で見る 阪神・淡路大震災



地震発生直後から同時に多発する火災。炎と黒煙が市街地を覆い尽くした＝神戸市長田区大丸山公園から（1995年1月17日）



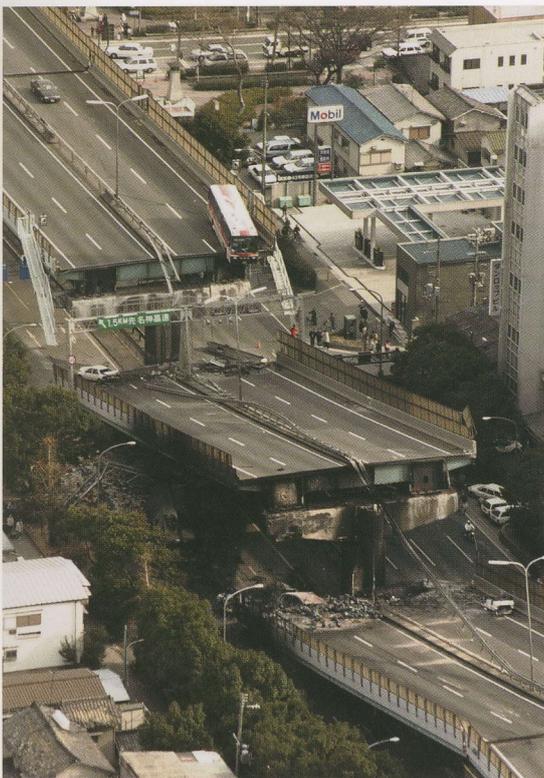
傾いたり損壊の激しいビルが建ち並ぶ三宮北のビル街＝神戸市中央区（1月17日）



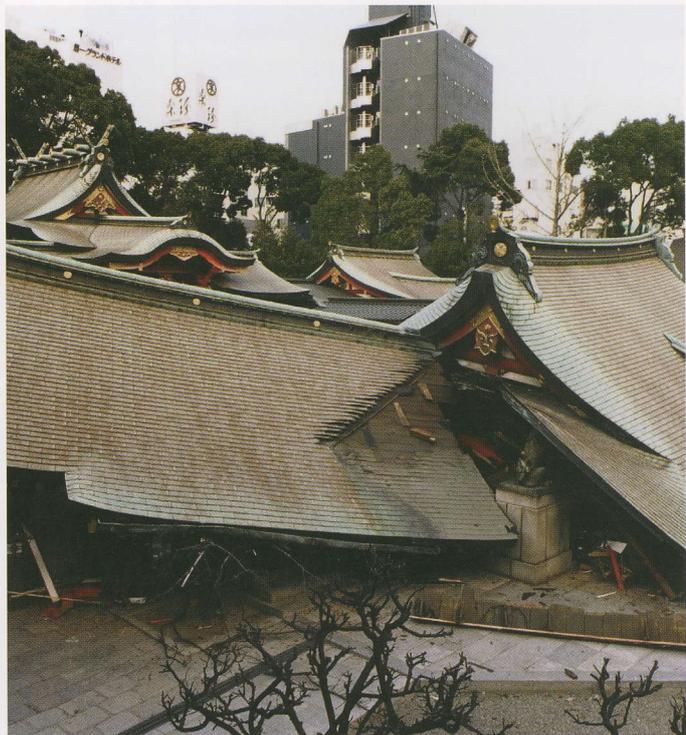
ぐしゃっと壊れた三菱銀行兵庫支店ビル（1月17日）



焼け野原になった長田区一带。18日になっても煙が残る（1月18日）



崩壊した阪神高速道路。間一髪、バスは転落をまぬがれた（1月18日）



拝殿の大屋根が落ち、無残な姿になった生田神社（1月17日）

*2-3ページの写真はすべて神戸新聞社提供

多数の書店が被災



阪急伊丹駅が崩壊。駅舎内にあった文学館阪急伊丹店も全壊



全壊の木村書店大石店。内部はめちゃくちゃに壊れている



本の海で足の踏み場もない。ボックスふじや



看板が落ちた南天荘書店



本が散乱している三宮ボックス



2階がつぶれた日東館本館



日東館本店内部



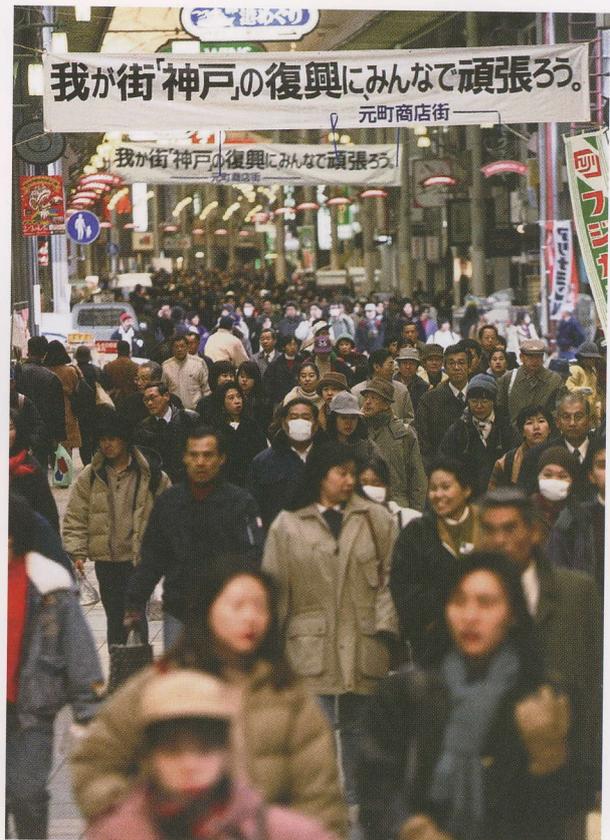
天井がつぶれ漏水しているアシーネハーバーランド店



本が壁の隙間に落下。日東館そごう店は全壊



比較的被害の少なかった神戸・元町の書店が早くも開店した
(1月25日) 神戸新聞社提供



街の復興はここから—と横断幕で意気込みを見せる元町商店街
(2月3日) 神戸新聞社提供

*明示以外の写真は日販提供

座談会

もっと、書店と地域のつながりを深めよう

—阪神・淡路大震災を振り返る—



出席者

安井 克典

株式会社安井書店 取締役会長
〈兵庫県書店商業組合 理事長〉

村田 耕平

株式会社三宮ブックス 代表取締役
〈兵庫県書店商業組合 専務理事〉

大杉 誠三

有限会社大杉広文堂 代表取締役
〈日書連共済会兵庫県地区委員会
委員長・第5支部 支部長〉

山根 金造

兵庫県書店商業組合 理事長
有限会社巖松堂書店 取締役会長
〈兵庫県書店商業組合第4支部 支部長〉

小林 由美子

小林書店

司 会

中島 良太

兵庫県書店商業組合 副理事長
株式会社三和書房 代表取締役社長

※〈 〉内は1995年当時、兵庫県書店商業組合での役職

地震直後の書店組合の動き

中島 阪神・淡路大震災発生から、2015年1月17日で20年になります。記録を残す最後の機会と思われまじ、いただいたご支援に改めて感謝を示したいということで、兵庫県書店商業組合として20年誌を作ることになりました。本日はみなさんに、当時の記憶を思い起こしていただき、今日までの歩みなどもお話しいただきたいと思います。

では、はじめに、当時の兵庫県書店商業組合理事長として獅子奮迅の働きをしていただいた安井書店の安井克典さんからお話しいただきます。激震地の神戸から少し離れた山崎町におられたわけですが、地震があった時はいかがでしたか？

安井 安井書店は中国山地の南、宍粟市山崎町（当時・宍粟郡山崎町）にあり、近くに「山崎断層」という大きな断層が走っています。朝、相当大



安井 克典

きい地震で目が覚めて、まさききに、山崎断層が動いたのかと心配しました。山崎町は震度4でした。テレビをつけると、淡路が震源地で、神戸は大変なことになっていた。神戸の本屋さんはどうなんだろう、状況を確認したり、対策を考えなきゃと思いました。

日本書店商業組合連合会（日書連）の定例理事会および出版販売新年懇親会が1月24日に、その年は箱根の湯本富士屋ホテルで開かれることになっていまして、兵庫県組合の代表として出席する予定にしていました。ただ、被害の報道をみると、新幹線は明石の鉄橋なんか壊れていて動かない、中国縦貫道も崩れて通れない、私の利用できるすべての交通機関が止まっていました。だから東京の日書連に電話で、「こういう状況なので新年の理事会には行けません」と欠席を申し出ました。

すると翌18日に、日書連の白幡専務理事から、「東京では出版社が募金活動に立ち上がった。地震対策協議会も立ち上げなければならない。なんとか理事会に出席して被害状況を説明してほしい」と連絡をいただきました。

これは、何としても行かなければならない。なので被災地の中心地におられて、組合の専務理事だった村田さんに「自宅や店が大変なときだけでも、理事会に同行してください」とお願いしました。村田さんも「何をおいても行かなければならないですね」とご同行いただけることになりました。私は、岡山まで車で行き、岡山空港から飛行機で羽田に飛び、箱根に入りました。

村田 神戸市中央区のポートアイランドにある自宅も、三宮にある店も被災地のど真ん中でした。自分の家や店は壊滅的な状況でしたが、専務理

事という立場で同業仲間が心配でした。安井さんから連絡をいただき、日書連理事会、そして出版社や取次会社など含めて300名くらい出席される新年懇親会で、実情を説明する使命があると思いました。

理事会の前日、JRは、甲子園口から確か須磨の間は動いていなかった、新幹線もストップしたままでした。箱根に行くには、ポートアイランドから三宮まで歩いて、そこから代行バスに乗ってJR甲子園口まで行って、新大阪から新幹線に乗ることになります。道路は渋滞し、代行バスの窓から見える国道2号沿いの建物はほとんど崩壊していました。すぐ横の車線を救急車や支援車がひっきりなしに走っています。3、4時間かかって甲子園口にたどり着きました。そこから、一旦、大阪で途中下車しました。日本出版販売（日販）が被害状況を表にまとめておられて、見せていただけることになっていたんです。大阪駅近くのホテルの喫茶室で日販の幹部の方に会い、資料をいただきました。ホテルではシャンデリアが光り輝き、お客さんが優雅にお茶を飲んでいました。かたや甲子園口から西は地獄のような状態で、水や食料がなく、まだ救出されずがれきに取り残されている方もあった。電車でわずか20分ほどの距離なのにギャップが大きくて…ショックでした。

それから新幹線に乗り、夜10時過ぎに箱根に着き、地震後初めて、何日かぶりに風呂につかりました。そこでお目にかかった福島県の高島理事長が「ズスンはおっかねー」とおっしゃった。その「ズスン」という訛りにリアリティがあるなと思いました。後に、福島に、東北に大きな地震が来るなんて思いもしませんでした。

そして、翌1月24日の理事会で、体験したこと、

見聞きしたこと、日販の資料などを用いて小1時間説明しました。皆さん熱心に聴いてくださり、質問を受けました。

日書連が即1,000万円の義援金拠出を決定されました。その後の懇親会席上でも、三笠書房、講談社、小学館など、出版社も支援して下さることになったように思います。義援金については、日書連で「阪神大震災対策協議会」を設置し、口座を作っていたことが決まったと覚えています。

助かった、素早い対応

中島 安井さん、村田さんが、日書連理事会で説明いただいたことが、多くの支援につながったのだと思います。共済の方では大杉さんが動いてくださいました。

大杉 震災後、共済会の果たした役割は大きなものがありました。加入者の方には大変喜んでいた



大杉 誠三

だけだと思います。一口につき、被害状況によっては60万円、80万円とあり、見舞金も出ました。

手元に阪神・淡路大震災で支払った一覧表があります。ここで一軒一軒の金額は申し上げませんが、加入された方は非常に助かったのではないかと思います。共済というのは、平時は何も感じないけれども、いざという時にこのように助かるわけで、感謝しています。

安井 日書連の会議を受けて、2月3日に神戸の書店会館で兵庫県の緊急理事会を開きました。多額の保険に入っていたけれど、地震では保険金が1円も下りなかった。今回は共済のありがたさがしみじみと分かったという発言がありました。

中島 共済は加入人数に応じて補償が出たわけですが、日書連を通じた義援金は、非組合員の書店にも分けられましたね。

村田 義援金を公正に配分するために、日書連の阪神大震災対策協議会が、大阪府書店商業組合の中に設けられ、会長には大阪府組合の理事長でヒバリヤ書店社長の森川勝敏さんが、実行委員長には安井さんが就かれました。近畿ブロックの書店組合の理事長もしくは副理事長、出版社、取次会社が出席し、そこで1週間に1回強、会議が開かれ、義援金の分配方法についてなどを決めていきました。

中島 配分が非常に大変だったのではないかと思います。

村田 被害の度合いにより金額を変えるのですが、被害程度をどう認定するか、非組合員はどうするかなど意見が食い違うこともあり、激しい議論になったこともありました。

そして、緊急の見舞金5万円は、非組合員も含めて皆さんにお渡しすることになりました。組合員

店に対しては被害状況に応じて、

A：240万円：被害額1,000万円単位。

再開業まで半年以上

B：50万円：被害額100万円単位。

再開業まで半年以内

C：5万円：被害額10万円単位。

国税局指定地区以外の被災地

D：3万円：軽微な被害。被災地区指定

のない地域

の4ランクで分配することになりました。

安井 集まった義援金は出版社や取次会社には配らず、書店のみに配分すると決まりました。第一次配分となる見舞金は、早急に配る必要がある、ということで、組合員・非組合員にかかわらず、組合員は組合役員が、非組合員には取次会社が、一律5万円を届けることになりました。

地震が1月17日にあつて、対策協議会が1月27日、2回目が2月7日という風に、非常にスピーディーに業界が動いてくれたのが印象的です。

義援金は1円も残さず

村田 義援金配分のための判定は、各支部の支部長さんをお願いし、その確認には安井さんらと数人で各店を回りました。もちろん私たちは専門家ではありませんから、できるだけ支部長の決定に従いました。日ごろの整備不足による傷みじゃないかと思われても地震被害だと言われるところや、反対に明らかに地震の被害だろうと思われるのにお金は最低ランクでいいとおっしゃるところもあり、さまざまでした。

安井 平成7年の7月7日で、義援金の収支報告書を締めています。2月8日から運用を初めて、5

カ月で終結したことになります。兵庫県組合にいただいた義援金は、保証小切手にして渡しました。全額被災書店に分けるべきだとして、5回に分けて分配し、本部に1円も残しませんでした。5回目については、各店ではなく支部に配分することになりました。明石支部（第4支部）は辞退され、第1支部、第2支部、第3支部に、組合員の数に応じて按分し、各支部で書店の復興に役立てていただくことにしました。

中島 山根さん、神戸市の西隣の明石は最後の義援金を辞退されていますが、被害はいかがでしたか？

山根 明石・三木は第4支部で、私は支部長を、県の組合では書記を務めていました。明石は明石川という川が明石市域の東の方を南北に流れていて、明石川を境に東は被害が大きく、西は小さかった。幸い私の店は西にあり、本が落ちたり、壁に亀裂が入ったりはありましたが、棚を詰め直

して2、3日で営業できました。明石は、震源地の淡路島の北淡町（現・淡路市）に非常に近いにもかかわらず被害が小さかったと思います。

中島 活断層が北東の方向に走っていたからですね。

山根 日書連さんから早々に見舞金が配られ、助かったという思いがしました。共済会でも見舞金をいただきました。非組合員にも公平に配られて本当に良かったと思いました。

中島 後方支援はいかがでしたでしょうか？

安井 第5支部は、皆さんが義援金を集めてくださった。書店同士も助け合ったんです。書店の結びつき、業界の団結が強かったという思いと、感謝の気持ちでいっぱいでした。こういう大規模な自然災害は、近年では阪神・淡路大震災が初めてに近かったからかもしれません。

村田 阪神・淡路のあと、たくさんの自然災害が発生しましたからね。



「本屋っていい」と思った瞬間

中島 公のお立場から、組合の仕事に走り回ってくださった村田さん、ご自宅やお店はどんな状態だったんですか？

村田 自宅はマンションの10階でしたので揺れも大きく、部屋の中で立っているものはすべて倒れ、テレビは飛び、断水という状況でした。今から振り返ると、どうやって生活していたか分からないような非常時でした。初期のころはエレベーターも止まっていたので、10階まで水を歩いて運び上げたり、何をするにも並んだ記憶が強く残っています。ポートアイランドは埋め立て地のため、液状化現象が起き、歩行も困難なほどでした。三宮とつながっている橋が傷んで交通機関がすべてストップしていたため、三宮まで出るには歩くしかなかった。そんななかでもいろんなところから電話連絡が入るし、出版社の訪問も受けました。

三宮ブックスは私ともう一人の従業員しか出勤できず、2人で本を1冊1冊棚に戻していきました。そのうちに、取次会社が10人～20人のグループを作り、各書店を回ってお店の支援をしてくれました。本を拾い上げる、書架やシャッターのゆがみを直す、などしてくれました。神戸へ入るだけでも大変な状況のなか、福知山を経由したり船を使って苦労されたでしょう。お店の復旧には取次会社の力が活きました。

神戸の中心地では、元町の海文堂書店が1月25日にいち早く再開され、お客さんが待っていましたとばかり押し寄せたと聞き、びっくりしました。

中島 武庫川を挟んで東側の尼崎は、神戸・西宮に比べると幾分被害は軽微でしたが、小林さんの所はいかがでしたでしょうか？

小林 うちには尼崎で、半壊の判定でした。北側の壁が落ちてしまって雨が降ると座敷に水が入り、雨のシミがついこの前まで残っていました。店から50～60メートル離れた文化住宅が潰れて、火が出て7人の方が亡くなられたんです。よく知っているおじいさんがその中におられ、本当にショックでした。電気こそ早く復旧しましたが、ガス管が切れてずっとガス臭かったですし、水も長く来ませんでした。

店はウインドーが全部割れ、コンピュータが吹っ飛んで、データをバックアップしていなかったもので、配達記録から何からなくなってしまって、それが一番困りました。日販のシステムを使っていたのではなく、主人がソフトを作っていたんです。頭のなかが本当に真っ白になりました。寒い風が入るのでシャッターを閉めたまま、真っ暗で、棚から本が全部落ちている。どうしよう、どうしようと座り込んでいました。しかも、半月もしないうちに支払いをしないといけない、そのことばかりが心配で



小林 由美子

たまりませんでした。

店の中に座り込んでいたのですが、暗いので、ふとシャッターを1枚開けたんです。そうしたら、人が入ってくるんです。お客さんというより、道を歩いている人が。で、「怖かったね、大丈夫だった?」と聞いてくれるんです。「大丈夫だったよ」と答えたら、今度はご自分が怖かったことを一気に話し出されるんです。わーっと話をして、最後に、「でも、またがんばらなあかんね」と言って、帰っていかれた。本を買いに来られたわけではないんです。恐怖を話しに来られるんです。その時に「ああ、本屋ってすごくいい! 安心して話ができる場所なのかな」って思ったんです。近くの食べ物屋さんなどは、水やガスが来ないから営業ができません。でも本屋は本があれば再開できる。本は埃まみれになってしまっているけれど、それを棚に戻せば、とりあえず本屋の形がつく。「店を開けよう」と思ったんです。

入口には透明のビニールシートを押しピンで貼り、子どもたちも、おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に、一冊一冊本をはたいて、埃をぬぐって棚に戻していきました。みんな無言で作業に没頭しました。「店を開けよう、人がホッとして入って来られる場所がなかったらあかん」と、その一心で作業しました。

それから主人に「うちは大丈夫やって、日販に電話してこい」と言われて、固定電話が通じないから公衆電話に並んで、連絡しました。するとすぐに日販の支店長と課長が来てくださいました。出版社の人も水とかを持ってきてくださった。大阪の本屋仲間が食べるものやガスボンベを持って来てくれた。モノもありがたいのですが、そのときは「気持ち」を助けてもらいました。幸いコンピュー

タが得意なお客さんが毎日のように来てくださって、少しずつメモリーを修復してもらえて作り直すことができました。

支払いのこととか壊れた壁とか、現実的にはどうにかしないといけないことはありますが、「本屋ってすごくいいな、みんなに助けられて、でもみんなが安心して入って話ができる場所やな」と思いました。それから、自分の思いが伝わるような商品も並べるように考えていきました。

中島 うちは、店長の家が全壊で店に出られる状況ではないと連絡をくれて、店も開けられる状態ではないので、すぐにバイクに乗って、店長の家を見に行っただけです。

武庫川を西に渡って、一本道を入った途端に、ふんと材木が裂けたにおいというか、埃っぽいにおいが一面に漂っていて、見えるのは瓦礫ばかり。景色が全然違っていました。

店は本が縦揺れで滑落して、横揺れで混ざっ



中島 良太

て、本の海のような状況です。一番大変だったのが、消火器が破裂して、本が粉まみれになったことでした。すると、次の日だったか、トーハンが応援に駆け付けてくれて、3日後くらいには営業を再開できました。尼崎だったからまじやったんだと思います。

大学時代の友人がガスボンベを大量に分けてくれたので、原付バイクの後ろに段ボールに6ケースくらい積んで、神戸のトーハン会青年部部員のところに持って回りました。道路も穴が開いていて、バイクで走るのも危ない状況でしたが、何とか須磨まで行ってみんなの無事を確かめて帰りました。

尼崎の中央・三和本通商店街ではその後、被災者のために、自由に使える洗濯機がある場所と、お風呂屋さんの場所が載ったマップを配りました。そんな形でしか我々は協力ができませんでした。

地域のなかで絆を深めたい

中島 さて、我々が経験したことがその後の東日本大震災などに活かしていると思いたいのですが、アドバイスというか、後々の人たちに残したいことはありますか？

山根 阪神・淡路大震災で、自分の人生が変わった、見方が変わりました。若者が自分のことをほうってでもボランティアに走り回った。今困っている人を助けたいという人が多くいました。そういうことをつぶさに見て、近くの人たちとの絆の大切さをいやというほど知りました。

地域で、祭りとか活発なところほど近所のお年寄りの住んでいる場所なんかを知っていて、おばあちゃんを助けたりできているんです。そういうことは日ごろの地域でつながりがあってこそできます。



山根 金造

僕らは本屋だから比較的地域とつながっているとありますが、まだまだもっとつながっていかないといけない。それを震災に教えてもらいましたし、長い目でみれば本屋の商売にとっても大事なのかなと思います。

仲間が非常に心配してくれて、友だちの大事さ、付き合いの大事さを改めて知りました。本屋さんでこそ活かせる、人と人とのつながりを通して、新しい何かが生まれるのではないかと思いました。

中島 東日本大震災が起こったときに、ボランティアで本を集めて、被災地の子どもたちに届けに行ったんです。子どもたちは普段はゲームばかりしていると思うんですが、久しぶりに本に目を向けてくれたように思います。待ち望んでくれたというか、奪い合うように、むさぼるように本を読んでもくれた姿が印象に残っています。

そういう心のケアのようなお手伝いができるのが本屋の仕事なんだなと、「本屋をやっていてよ

かった」と思いました。もっとできることがあるのではないかと思います。

組合の中でシステム構築が必要

村田 20年前と今を比較すると、携帯電話など生活様式は随分変わっているから単純に比較は難しいけれど、これだけ自然災害が多発している現状で、書店組合の中に、なにかコトがあったときに緊急に対応するシステムを作っていかなきゃいけないでしょうね。他県の組合でもこのようなシステムはないのではないのでしょうか。緊急時にどういう風な連絡網でどういう風にやるかということを組合で取り決めなきゃいけない。それを使う日が来ないことが一番いいのですが、きちっとして備えておくべきだと思います。

兵庫県だからこそ作らないといけない、と思います。



村田 耕平

中島 危機管理マニュアルですね。

村田 取次さんにもそんな特別なものはないかもしれません。

あと、取次さんの支援としては、各担当者の奥さんが作ったお弁当を持ってきてくださったことは印象深く、涙しながらいただきました。

大杉 人間万事塞翁が馬という言葉があるように、どんなことがあっても地道に頑張っていれば、「本屋をしていてよかったな」という状況が作れるというのは嬉しいことです。

中島 まだまだ話は尽きませんが、ここでの話を読んだ方が、書店組合の必要性を感じていただければ幸いです。

安井 これまでご支援をいただいた各方面の皆さまに、兵庫県書店商業組合から改めてお礼を申し上げます。

阪神・淡路大震災 被災と支援の記録

1995年1月17日、午前5時46分。兵庫県南部地震が発生した。震源地は淡路島北部、地震の規模はマグニチュード7.3。震度7を最大に、神戸市・芦屋市・西宮市・宝塚市を中心に甚大な被害に見舞われた。6,434人が命を落とし（関連死を含む）、4万3,792人が怪我を負い、約64万棟の住宅が被害に遭った（数字は神戸新聞より）。

あれから20年、被災直後の兵庫県の書店の被災状況と、復興への足取り、日本書店商業組合連合会（以下、日書連）や取次会社の支援の動きを、全国書店新聞（以下、書店新聞）の記事を中心に振り返る。（役職等は当時のもの）

◆地震発生、惨状が明らかに

震源地から最も近い書店である淡路島の仲井書店は、「壁に取り付けた長い書棚ごと吹き飛んだ本がうず高く積み、足の踏み場など全くない状態」に陥った。震度7の激震地であり、JRと阪急電鉄の高架下にある三宮ブックスは、「入口シャッターが曲がり大きくゆがんでしまい出入りができない。店内はすべての書架がずれ、あるいは倒れ、本のすべて

てが落下した。社員のうち、ひとりの自宅は全壊」であった。

また、従業員やその家族が死亡したり、店舗の被害は小さくても、ライフラインが復旧せず、すぐに営業再開できない店も多かった。



三宮ブックス



木村書店大石店



阪急伊丹駅

書店被害状況

書店名（順不同）	被害状況
＜神戸市＞東灘区	
文学館六甲店	商品落下
青木書店	無事
ヒカリ書店	全壊、棚倒壊
BOOKS YOU リック店	交通規制で再開未定
本山宝盛館	棚倒壊、商品散乱、レジ破損
宝盛館長崎屋	立ち入り禁止
ブックス見付	商品落下、通勤不可
白鷗ブックス	ガラス・タイル・看板落下、内部立ち入り禁止
エミール書房	シャッター半壊、建物傾斜、中の状況不明
扇文館	シャッター破損、内部不明
サティ東神戸	ガラス、壁亀裂、商品落下
BF 岡本	本落下
甲南堂	商品散乱
文遊堂 673	外壁ヒビ、商品散乱
蔦屋住吉店	半壊、天井落下
ブックプラザ御影店	電気、ガス、水道使用不能
コーセイブックス	全壊
ふしみ書房	全焼
甲南大生協	壁面の棚ズレ、商品落下
ウオザキ書店	商品落下、自宅半壊
アピンス岡本	什器倒れる
・灘区	
オクダ書店	全壊、棚倒壊
岩崎書店	全壊、棚倒壊
雄倉書店	棚倒壊、壁落下
コトブキ書店	半壊、棚倒壊
ブックスのじぎく	半壊、棚倒壊
センチュリー書房	半壊
木村大石店	全壊
ユーカリ南天荘	4・5 Fは潰れ、商品散乱
フォレスト南天荘	壁一部損壊、商品落下
神戸大生協発達科学	商品散乱
神戸大生協ランス店	地盤ズレ、建物危険

阪急六甲南天荘	店舗破損、立ち入り禁止
パール書房	商品落下
蔦屋王子公園店	地割れ
アピンス六甲	立ち入り禁止
B&V NADA	営業不能
灘宝文館	棚倒壊、本落下
・中央区	
コーベックスさんちか	地下街に入れず不明
アニメート三宮店	倒壊ひどく、近づけず
丸善神戸元町店	棚倒壊、商品散乱
漢口堂三宮店	半壊
星電三宮	立ち入り禁止
元町宝文館	棚倒壊
サンエー書店	棚倒壊
本庄ブックス	立ち入り禁止
流泉書房本店	棚倒壊、水濡
BOOKS あゆみ	半壊、棚倒壊
阪急絵本館	立ち入り禁止
星電オーガスタ	立ち入り禁止
漫画倶楽部元町	棚倒壊、立ち入り禁止
漫画倶楽部三宮	立ち入り禁止
日進堂	本落下
海文堂書店	建物少し破損、棚倒壊、商品散乱
三宮ブックス	シャッター半壊、床ヒビ、漏水
日東館本館	半壊、再開見込なし
日東館そごう	全壊
アシーネハーバーランド	壁落下、漏水、商品落下
高橋新聞舗	破損
121本部	隣のビル崩壊
紀伊國屋神戸営業	ガラス破損
BSフジヤ	商品落下
ふたば神戸大丸	外見無事、内部不明
ジャパンブックス	商品落下
いけだ書店オーガスタプラザ店	立ち入り禁止
飯田書店	店舗と人はOK
朝日屋	店舗は無事
ジュンク堂ブックセンター	給水塔倒壊
ジュンク堂書店	ビル半壊
シネマ春日野道店	商品散乱
カスガノ書店	全壊
毎日舎	傾斜
・兵庫区	
BFメトロ神戸	棚倒壊
BOOKS 花咲街角湊川店	半壊、棚倒壊
神陵文庫	半壊、棚倒壊、水濡、ガラス割れ
かもめ本店	立ち入り禁止
三協事務	半壊
神文館本店	半壊、周辺商店街もだめ
神文館メトロ店	入居ビル全壊
マーガレット	入居ビル全壊
川池書店	半壊
隆司書店	半壊、商品落下
菱興ストア	建物少し損壊
河合書店	建物は無事
合城屋書店	建物は無事

なかやま	復旧済み、営業可能
ブックマート神戸	商品散乱、見通したたず
・北区	
ジュンク堂神戸北町店	スプリンクラー作動
アシーネ鈴蘭台	棚倒壊
ママの店	復旧済み、営業可能
スター商会	店舗と人は無事、商品散乱
・長田区	
秋田百文館	焼失
日東館長田店	半壊
BF ジョイプラザ店	棚倒壊、水濡
敬林館	店舗と人は無事、商品散乱
サンヨー書房西代店	店舗は無事、店員1名死亡
朝日屋鷹取店	店舗は無事
アイヨ堂書店	店舗は無事
池田書店	全壊
高田屋書店	半壊、営業不能
・須磨区	
アシーネ板宿店	棚倒壊
源氏書房	全壊、棚倒壊、1階押しつぶれ、自宅避難勧告
井戸書店	商品散乱
ブックス三ツ輪	棚倒壊、商品散乱
坂本書店	全壊
すま書房	半壊、周辺は全壊
ビプロス須磨	ガラス、看板、蛍光灯落下、商品落下
博文堂	店舗無事、自宅全壊
朝日屋高倉台店	店舗と人は無事、商品散乱
流泉書房パティオ店	本落下
流泉書房神ノ谷店	棚倒壊、水濡れ
流泉書房南店	商品散乱
神戸書林	店舗と人は無事、商品散乱
KTV 白川台	商品散乱
・垂水区	
リーブル塩屋	棚倒壊
広文館	棚一部被害
文昇堂	商品落下
日東館垂水店	商品落下
香山書店	壁に亀裂、商品散乱
ブックスイカリ	商品落下
アシーネ舞子	天井5か所落下、入場制限
文進堂書店	店舗と人は無事、棚ズレ、商品散乱
漢口堂明舞店	水濡、本落下
好文社	商品散乱
シマヅBOOK	商品散乱
・西区	
ブックスみどり	商品落下
ジュンク堂学園都市店	棚倒壊
神戸商科大	商品落下
リーブル押部谷	棚倒壊
ブックフォーラム西神中央	商品落下
アミーゴ西神戸	商品散乱、スプリンクラー作動
漢口堂西神そごう店	店舗と人はOK
SATY 西神戸	天井落下、立ち入り禁止
ブックス玉津	本落下
<芦屋市>	

ジュンク堂芦屋店	本落下
阪急ロザンダ	本落下
甲陽	全壊
芦の舟書店	傾斜、ヒビ割れ
大和昭文堂	ヒビ割れ、商品散乱
芦屋宝盛館駅ビル店	立ち入り禁止
蔦屋芦屋店	建物ヒビ、近隣ビル破壊、内部不明
ブックハウス T & L	商品散乱
<西宮市>	
光文堂西宮店	建物半壊、商品散乱、シャッター半分開けて営業
ピプロス西宮店	事務所損壊、社員1名死去
サティ西宮店	半壊、商品落下
あさひ	漏水、商品落下
蔦屋甲子園口店	ビル一部損壊、商品落下、隣全壊
蔦屋西宮店	商品落下、什器破損
蔦屋 JR 西宮店	什器破損
アシーネ甲子園店	商品散乱
千種苦楽園店	建物ヒビ、商品落下
川畑書店	壁破損、商品落下
藤岡書店	商品落下
ブックスさくら	全壊
アイビー書房甲子園店	商品落下
関西学院大生協	商品落下
ブックスシオサイ	商品落下
ライフ今津店	壁ヒビ、漏水、商品落下
コープ BL 浜甲子園	商品散乱
アシーネ西宮店	天井3か所落下
夙川書店	ビル傾斜
キリン堂西宮店	9割方商品散乱
ミナトヤ書店	北口市場倒壊、商品散乱
みどりや書店	9割方商品散乱
アミーゴ西宮店	商品散乱
沢田書店	棚損傷、商品散乱
西宮宝盛館西店	全壊、営業再開未定
西宮宝盛館	入店不可
キリン堂武庫川店	商品散乱
みどりや苦楽園	避難勧告地域
ゆうぶん堂	スプリンクラー故障、店主打撲骨折
華文堂	棚倒壊、商品散乱
青楓堂	全壊、避難勧告地域
大手前女子大	校舎倒壊
西宮宝盛館東店	倒壊
アイビー阪神西宮店	建物傾斜、2F事務所落下、入店困難
新生堂書店	タンク損傷、水浸し
イズミヤ西宮店	床落下
ブックスキヨスク西宮	水濡れ
豊臣書店西宮店	ガラス破損
ブックプラザ西宮店	電気、ガス、水道使用不能
ブックス・ヴィラ	商品散乱
ブックセンター ROCO	商品散乱、復旧済み
西宮ますだ	商品散乱
エス書店	商品散乱
<伊丹市>	
文学館阪急伊丹店	駅舎・建物全壊、復旧の見通し立たず
B ユートピア	商品落下

みやび書房	外壁一部損壊、商品散乱
まつみや伊丹店	壁にヒビ、商品散乱
いずみ文庫西店	水濡れ、約300冊被害
ジャスコ伊丹店	半壊、立ち入り禁止、内部不明
171 屋	屋根の一部落下
トモエ書房	水道タンク破裂
アミーゴ昆陽店	配水管損傷
<宝塚市>	
川瀬書店外商部	半壊、商品散乱、建物傾斜
川瀬書店アピア店	商品散乱
川瀬書店安倉店	半壊、スプリンクラー作動、水濡
川瀬書店サンローゼ	商品散乱
川瀬書房ソリオ	半壊、ビルの損傷大
シグマ書房	棚倒壊、商品落下
新月書房	商品散乱
文明堂	支店の棚倒壊
アミーゴ小林店	棚倒壊、商品散乱
イズミヤ小林店	立ち入り不可、再開未定
キリン堂宝塚店	商品8割方散乱
岡山書店	商品散乱、商店街休業中
太閤書房中山店	商品落下
おもしろランド	商品落下
チトセ宝塚	商品落下
辻本	商品落下
宝塚書店	商品落下
大成文具店	半壊
アサヒ BC 宝塚店	商品散乱
<川西市>	
ますみ書店	商品散乱、義弟死亡
ニレ書房	立ち入り不可
日東館兼古店	商品散乱
兼古書店東店	商品散乱
蔦屋川西店	外壁亀裂、商品散乱
蔦屋川西駅前店	窓ヒビ割れ、商品落下
文学館清和台店	商品散乱
アニメート川西店	商品散乱
ひばりヶ丘	商品落下
アシーネ川西店	隣店より水濡れ、コミック水濡
キリン堂川西店	棚倒壊、商品散乱
<尼崎市>	
小林書店	外壁落下、書架倒壊、本落下
リプロつかしん店	排水管用破裂により商品水濡れ
MC アルファ	ドアガラス割れ、商品落下
ダイハン塚口	商品落下
ダイハン園田	商品落下
駈々堂尼崎店	商品落下
Book House 太一	屋根瓦落下、商品落下
いとう書店	商品散乱
山崎書店	商品散乱
水沢書店	商品散乱、ドアきしみ
きさらぎ書房	商品落下
きさらぎ鳴尾店	商品落下
高山書店	商品落下
金田文栄堂	商品落下
山家ヒカリ	半壊、全商品散乱
ムービースター	商品散乱

湘南 BC	商品散乱
光文堂	全商品散乱
ブックショップ武庫之荘	全商品散乱
ABC 書店	店舗一部破損、商品落下
園和書店	商品散乱
堀書房	崩壊の恐れ、廃業検討中
三和書房本店	商品散乱
三和武庫之荘店	棚倒壊、商品散乱
河上書店	表ガラス破損
さんファイブ宣文館	什器、商品被害大、水濡
花咲街角杭瀬店	玄関2か所損傷
細見盛文堂	外壁剥離、落下
イナバックス	棚倒壊、商品散乱
朋文堂	商品散乱
園田昭文堂	商品散乱
あてね書房	棚倒壊、水濡、商品散乱
ミニストップ塚本店	水道管破裂
ニュートン立花	棚倒壊
セーヌ書房	水濡、商品散乱
おきな書房	商品散乱、プリンター破損
コープブックランド武庫	水濡、商品散乱
あさご書店	シャッター崩壊
タイムブック	ガラス破損
<明石市>	
ラボス木村書店	商品落下
木村書店	商品落下
ウエダ商店	ガラス一部破損、商品落下
明文堂	壁に亀裂、商品落下
ブックタウンマリア二見店	商品落下
カイブン売店	壁一部落下、商品落下
ハクロ書房	商品落下
聖文堂書店	壁一部落下、商品落下
内藤	半壊
BF 明石	棚倒壊
一碧書店	水浸し、商品散乱
文栄堂書店	本落下
巖松堂書店	本落下 (多少)
ボックス中島	スプリンクラー作動、水濡
兼古書店	半壊、棚崩壊
トッパンセールズ明石店	水濡、レジ、棚板破損
朝霧書房	本落下
村山書店	棚崩壊、ガラス破損
コープブックランド大久保	棚倒壊
松中書房魚住モール店	本落下
松中書房土山店	本落下
松中リオビル	水濡れ、本落下
メディアブック播磨	本落下
ジュンク堂明石店	ビルは無事、商品散乱
坪井魚住店	復旧済み、営業可能
学友書房	店舗無事、商品散乱
ボックスハルミ	蛍光灯が一部落下
ボックスサンヨ大久保	商品散乱
ボックスコスモ	商品落下、散乱
<淡路島>	
成錦堂	商品落下
宮脇書店三原店	建物一部損壊、商品落下

シティオ三原	ガラス破損、商品落下
福浦藻文堂	ガラス破損、商品散乱
広益堂	水浸し、商品散乱
BOOK ランド	水浸し、商品散乱
南陽堂	店舗と人は無事、商品散乱
牧野文具店	水浸し、商品散乱
富田富貴堂	被害なし
ボックスすみ孫	被害なし
島津盛文堂	被害なし
仲井書店	商品散乱
坂本水門堂	本落下
淡路ブックセンター	棚ズレ
ブックサークル	棚崩壊
BOOKS クラブ	本落下、自宅倒壊
岡田書店	本落下

(各取次調査および書店新聞 1月30日付より)

◆日書連・各都道府県の組合、動き始める

1月18日に開かれた東京都書店商業組合の新年懇親会で、日書連の小澤淳男会長は「地震への対応が新年の最初の仕事になるだろう」と、被災書店への復興に全力を傾ける方針を明らかにし、義援金を募った。大阪府書店商業組合も、府下の被害状況の把握と情報収集に努め、兵庫県書店商業組合（以下、兵庫組合）に見舞金を贈り、日書連とともに義援金を呼びかけることを決定した。

◆取次も素早い動き

トーハンは1月17日、対策委員会を本社に設置した。神戸支店（神戸市中央区）は支柱にヒビが入り、立ち入り禁止になった。すぐさま全国から100人余の応援が現地に入った。

日本出版販売は西日本流通センター（大阪府摂津市）で棚の商品が落ち、神戸支店（明石市）はガラス破損などで被害は小さい。関西支社に災害対策本部を設置し、18日から調査・支援の社員を被災地に派遣した。

大阪屋は本社に緊急特別対策班を設置。神戸支店（神戸市兵庫区）は壁、柱に亀裂が入り、14万冊の商品が散乱した。社員30人を現地に派遣した。

※取次会社の被災と支援の様子は、26～27ページを参照。

◆義援金の窓口が決まる

被災地では死者が刻々と増え続け、書店の被害の全容が次第に明らかになるなか、1月24日、日書連の理事会が箱根・湯本富士屋ホテルで開催された。

この理事会に、兵庫組合・安井克典理事長（安井書店）と、村田耕平専務理事（三宮ブックス）が駆けつけ、被災状況を説明、「従業員の給料支払い、取次への支払いが心配」と心情を述べた。

日書連・小澤会長は取次に対して支払一時延期を、出版社に対しては水濡れ品の入帳を呼びかけている。

日書連は「日書連阪神大震災義援金」の口座を設け、出版業界に義援金を募るとともに、「阪神大震災対策協議会」を立ち上げた。協議会は、担当副会長を森川勝敏近畿ブロック会長とし、近畿ブロック各府県理事長、在阪出版社、取次で構成、義援金の配分などを検討することとした。

日書連共済会は1,000万円の義援金支出を決定。共済会加入の店には、一口最高80万円の地震給付の適用を確認した。



書店新聞2月1日

◆支援の申し出続々と

日書連を先頭に、各府県の組合も義援金カンパなど活発な支援が動き出した。また、個々の書店からも支援の声が上がっている。新潟県のマスヤ書店・竹内隆司氏は「本を送ることは物質的援助であり精神的援助でもあります。(中略)(仮設住宅に)図書館を仮設する。もしくは、車で移動図書館を開設する。そして図書を提供する。資金は、私たち書店組合員はもとより、さらにお客さんにも呼びかけ募る。そして本の注文、納入は被害を受けた地域の書店を通して行う」と声を寄せている。

三笠書房は1,000万円の義援金を拠出、押鐘富士雄社長は、「出版業界は、書店、取次、版元が三位一体となって初めて繁栄していける。復興のための商品搬入と被災本の入帳の条件、義援金などを含めて最大限の協力をさせていただく。(中略)何年後に『大震災で失ったものは大きかったが、得たものもまた大きかった』と言えるような、“三位一体の協力体制”が生み出されますことを切望いたします」と寄稿している。

◆対策協議会がスタート

1月27日、日書連の義援金を公正に配分するために設置された「阪神大震災対策協議会」の第1回会合が大阪組合で開かれた。メンバーは、以下の通り。

- [書店] 森川勝敏、大咲秀蔵、今西英雄、三軒繁夫（大阪）、山田光治郎（滋賀）、川勝泰三、大垣和央（京都）、辰巳寿一（奈良）、多屋陸男（和歌山）、安井克典、村田耕平（兵庫）
- [取次] 星文男（大阪屋）、淵上頼夫（トーハン）、武藤研治（日販）、草場憲生（栗田）、奥田幸宏（中央社）
- [出版社] 田口英樹（小学館）、滝沢俊夫（講談社）、日比栄三（角川書店）、今井悠紀（保育社）、小谷一夫（教学研究社）、岡本恵年（増進堂受験研究社）

この会議では、次のことが提案されている。

- ① 配分は兵庫県を中心に、京阪神の書店へ。
- ② 被害額の算定基準は、取次会社の調査を参考にする。
- ③ 見舞金・補助金の二段階とし、見舞金は組合加盟・非加盟にかかわらず一律に、補助金は被災程度に応じて算出する。

◆兵庫組合の緊急理事会

2月3日、兵庫組合は書店会館で緊急理事会を開催した。当時の理事会メンバーは以下の通り。

理事長 安井克典
 副理事長 抜井茂夫、堀 恭二、三上一充
 専務理事 村田耕平
 書記 山根金造
 第1支部長 村田耕平
 第2支部長 森洋一郎
 第3支部長 海野輝雄
 第4支部長 山根金造
 第5支部長 大杉誠三
 第6支部長 小山芳弘
 第7支部長 浅田展弘
 第8支部長 富田 譲
 相談役 小川恵一郎、川瀬光和、柏 秀樹

県内各支部より被災状況が報告され、被災店からは苦しい状況が相談されている。しかし、「一日も早く店を開きたい」「負けません」という決意表明もあり、支援・応援に感謝し、一日も早い復興を誓い合った。

◆学校教科書の被害

兵庫県教科書株式会社によると、教科書の被災状況は、

小・中学生用の現行教科書	295,538 冊	107,113,025 円
高校生用の現行教科書	16,000 冊	22,000,000 円
新年度分の教科書	52,942 冊	21,701,311 円

と報告されているが、被災者が負担することなく支給されている。

補給は災害救助法により、小・中学生用は市町の教育委員会負担となり、高校生用は同法の適用外で教科書協会が負担する規定だが、大規模であったため県・市町教育委員会負担となった。「だれが出す被災高校生の教科書費用」の見出しで新聞記事にも取り上げられた。のち、これがきっかけになって法改正された。

新年度用の教科書は、小・中学校の教科書の80%、高校の40%が取次店に入荷しており、被災した。震災では保険が適用されず、供給協会の支援で全国の特約及び傘下取次店で義援金を出し充当された。

被災地の納品にあたっては、一般道がひどい渋滞のために、「阪神震災児童生徒用教科書緊急配送中」という幕を配送トラックにつけて、緊急車両扱いになり、スムーズな配送が可能となった。



教科書を緊急配送するトラック。この横断幕のお陰でスムーズに配送できた（兵庫県教科書株式会社提供）

◆義援金配分の詳細

2月7日に開かれた阪神大震災対策協議会で、義援金の配分方法や対象地域などが決められた。また、実行委員長として安井克典兵庫組合理事長が承認された。決定事項は

配分対象	取次・出版社を除き、書店のみ。 「見舞金」「補助金」の二段階に分ける。
対象地域	兵庫県・大阪府の被災書店。 奈良・和歌山県は対象外に、京都府と滋賀県は辞退。
見舞金	組合員・非組合員ともに一律5万円。 現金と挨拶文と受取証明用紙を、組

会員には組合役員が持参、非組合員には取引取次が持参する。

対象は、当初、国税庁から発令された兵庫県17市町、大阪府1市とする。

補助金 対象は組合員書店に限定。

日書連の「弱者救済」という基本理念を考慮する。

書店組合および組合員からの義援金は、組合員向けの原資とする。

なお、配分先について「再開業までの期間によりランク分けし、金額を決める」などの意見が出た。

◆見舞金を被災書店へ

各県書店組合、版元、業界団体から日書連阪神大震災義援金に寄せられた金額は、2月20日現在で、総額1億566万円に達した。件数は328件。対策協議会は義援金を第1回分として受け、2,170万円を「見舞金」として支出している。

兵庫組合の組合員書店 239店

非組合員書店 142店

2月23日に開催された対策協議会で安井実行委員長は、「各取次は1,000人近い応援を派遣し、がれきの下から本を出す作業などで活躍してくれた。交通機関が通常ではないので、見舞金を届けるにも難儀している。垂水区の書店は被害程度が軽いとして、届けた見舞金を全額被災店に寄付すると申し出た」と報告している。



書店新聞3月1日

また、日書連・小澤会長は、日本出版取次協会を訪問、被災商品の表紙剥離、明細書添付は不可能として取次作成による明細書で入帳処理ができるように申し入れた。大手版元からは協力の意向が得られている。

日書連共済会は、会員書店50店に被災見舞い一時金として1店2万円を給付した。

◆被災地の子どもに本を

3月8日、「被災地の子どもに本を贈る会」の現地連絡会が大阪組合で開かれ、目標の2万冊を上回る4万1,881冊の寄贈本が集まっていると報告された。災害救助法発令地域の公立幼稚園、小学校、中学校に、4月下旬に贈呈されることが決まった。

◆海文堂書店「大震災・神戸からの報告」再開への苦悩

3月8日、トーハン総研の主宰する「カルチャーフォーラム・緊急レポート」で、海文堂書店・島田誠社長が被災状況や復興の現状を語っている。書店新聞の抄録を抜粋する。

◇◇◇

阪神大震災で、海文堂書店は重い書棚が数十架移動するなど、20万冊近い在庫の約6割が落下した。…被害がでたが、奇跡的に損壊を免れた。店のある神戸元町商店街の被害も8割は比較的軽微で、わりあい早く復旧に移れた。しかし三方の隣接店は被害のために取り壊されており、生き残れるかどうかというのは本当に運しかなかったと思う。

マスコミでは神戸市は復興一色のように報じられているが、とても復興といえる段階ではない。…商店は徐々に開き始めており、表面上の活気は復興に向けてというのが確かにあるが、内実は気の遠くなるような長い道のりがこれから待っている。

◇◇◇

島田氏は、地震を韓国の空港で知った。詳しい状況が分からず、パニック状態で関西空港に降り立った。

◇◇◇

会社や社員だけは無事であってくれと願いつつ店にたどり着いた時は、我が子の無事を確認した思いだった。店内を見回ったのち、自宅に夕方6時頃到着し、死んだように眠った。この9時間歩いてみた光景は生涯忘れ得ぬ記憶だ。

19日、20日は店内の整理をしながら、頭のなかがまっ白で呆然とした状態だった。取次や取引先と連絡を取るとともに、社員の被害状況を確認した。家をなくした者2名、半壊などの損害は多数で、ガス、水道、電気、交通手段もなく、電気の復旧を待つ作業準備に入ろうという心づもりだった。しかし営業を問い合わせる電話が相次ぎ、生き残った店の責任として早く再開しなければと思った。

店長、副店長を緊急招集し、トーハンの応援を得て開店準備を始めたのが21日。懐中電灯を30本用意し、暗がりの中を疲労困憊しながらの復旧作業が続いた。電気が回復したのが23日の晩で、パッと電気がついた時、思わず「バンザイ」と小さく叫んでしまった。24日に棚の細かいチェック、25日に営業を再開した。26日には、テレビからヒントを得て「がんばろう神戸」のスローガンを店頭に掲げだし、新聞の切りぬきによる災害関連情報も掲示した。スローガンは他店でも自然発生的に貼り出して、復興の合言葉になった。

いち早く店を再開することには、「自分だけ生き残って早々と商売を始めたら、皆から恨まれないだろうか」との思いから、勇気が必要だった。25日の朝は社員に「私たちは仕事を通じて社会の役に立とう。商売を超えてお客様の要求は何でもかなえてほしい」と話した。店が無事でも「商売にならん」と再開が遅い人もいたが、「一人でもニーズがあったら、私たちはそれに支えられて店をやっているのだから、早く店を開けよう」と商店街で申し合わせて、声を掛けて回った。社員からも「この時期に」という反応がないではなかったが、皆が顔をあわせることでだんだん活気が出てきて、目標を掲げるこ

とで一つのまとまりを生み出したと思う。

◇◇◇

1月25日に周辺の書店に先駆けて再開した海文堂。ここには再開後の様子が述べられていないが、26日付神戸新聞が、「告知はしていなかったが、開店前には約十人の客が入り口付近に詰めかけた。地震特集の週刊誌が飛ぶように売れ、店内の山が約2時間で完売した。市外から救援などで訪れた人は神戸市や兵庫県の地図を、受験前の学生は参考書を買って求める姿が目立った」と、開店前の島田社長の苦悩を吹き飛ばすような状況を伝えている。

◆各書店から日書連へ手紙

阪神大震災対策協議会を通じて、義援金が見舞金として配られた。それに対するお礼が日書連・協議会へ届いている。書店新聞（3月22日付）には

神戸市東灘区・キティー	富田敬三氏
神戸市中央区・元町宝文館	柏 秀樹氏
神戸市中央区・第一書房	佐子 恵氏
伊丹市・いずみ文庫	藤田 護氏
尼崎市・ABC書店	角野愛子氏
明石市・日東館書林	近藤 聡氏

の礼状が紹介されている。

対策協議会の森川会長と安井実行委員長連名の「取次各社の支援に感謝」の文も掲載している。

◇◇◇

時間の経過のなかで、書店の被災状況の一報一報を伝えてくれたのは、取次店各社でした。予想外の被災に驚愕するばかりでしたが、刻々と情報が入ってきました。そんななかで、トーハン、日販、大阪屋、栗田、中央社をはじめ在阪取次店は、地震発生の当日から社員を取引先書店に派遣、懐中電灯片手に瓦礫の下から本を取り出す作業、倒れた本棚、散乱した本の整理に努め、被災後、多くの書店が数日にして再開されたとも伝えられています。

動員数はすでに延べ千数百人に達したといわれ、灘区の宝文館は、取次店の若手が大勢来て本の整理をしてくれたため、ほとんど休業なしにやれたと活気のある声。三宮ブックスも、取次店の応援で28日には再開できたとの感謝の声も伝えられています。

◆義援金配分は4段階の被害基準で

阪神大震災対策協議会が3月28日、義援金の第二次配分を協議。被災書店を店舗被害の程度に応じて4段階に分け、補助金を配分すると決定した。

すでに、第一次分が見舞金として、11市7町の書店439店に送られており、今回は第二次の補助金の配分方法の詳細を詰めた。安井実行委員長が補助金配分について被災基準と具体的方法などを提案。店舗の物損のみを補助金の対象として被災状況を判断する。判断基準は

- A:被害額1千万円単位、再開業まで半年以上:
240万円
- B:被害額100万円単位。再開業まで半年以内:
50万円
- C:国税局指定地区以外の被災地、被害額10万円単位:5万円
- D:被災地区指定のない地域で軽微な被害:3万円

支店はそれぞれ半額

見舞金の対象となった書店の内訳はAランク35店、同支店7店、Bランク22店、同支店3店、C

書店新聞4月5日

ランク21店、Dランク13店。合計101店舗。長田区の秋田百文館は全壊全焼のために特別見舞金100万円を加算。

また、①義援金は組合役員が手分けして被災店に届ける ②事務経費、交通費を抛出した残額と同日以後に到着した義援金は第三次配分とする ③端数は日書連、児童図書出協、取協が共催する「被災地の子どもに本を贈る会」の配送費にあてる、と決まった。

◆子どもの心のケアに本を

「被災地の子どもたちに本を贈る会」は、寄贈先など全容を発表した。

協力出版社 73社

寄贈冊数 4万3,864冊

寄贈先 被災地の小学校67校、中学校31校の図書館、幼稚園2園の100施設

全国学校図書館協議会の笠原専務理事は、「たんに本を贈るだけではなく、活用してもらうこと」、また児童図書出協の小峰会長は「ショックを受けた子どもたちの心のケアに、本の果たす役割は重要」と述べた。

◆共済会が会員32店舗に給付

日書連共済会は4月19日、阪神・淡路大震災で被害に遭った会員へ、全壊一口最高80万円、全壊以外一口60万円として査定した結果、3,665万2,000円の給付を承認した。全壊した神戸市兵庫区の神文館は4口加入で320万円、同市灘区の岩崎書店は5口で400万円。全壊2店、半壊6店、一部破損24店、合計32店に給付した。まだ4店ほど申請中の店があるという。

のち、5月に追加給付があり、合計で37店、4,242万円の災害見舞金が給付された。

◆義援金配分1億3,000万円

4月の日書連理事会では、義援金は1億3,381

万円になったことが報告された。配分方法も、大阪組合・今西副理事長より、4ランクに分けて配分すること、その結果、一次分2,195万円、二次分1億786万円、合計1億2,981万円となったと報告された。残りは事務経費などを除き、三次分として兵庫県で配分する。

◆発生半年の復興状況報告

神戸・西宮・芦屋・宝塚市、北淡町（現淡路市）の4市1町では、全商店9,387店のうち約53%が全半壊した。そして、半年後、営業再開ができているのは被災書店の4割に満たなかった。半年たっても、被災地では避難生活を続けるを得ない人や人口減少など書店を取り巻く状況は回復しているとは言えない。

三宮ブックスの村田社長は、書店新聞の記者を伴って半年後の被災地を歩いた。三宮センター街の流泉書房は雨漏りと空調設備が使用不能になっていて、盛夏にむけて苦しい環境。全壊した日東館書林の跡地は更地になっていて、仮店舗の表示があるだけで再開の案内はない。一方でアーケードが無事だった元町商店街の丸善神戸支店、海文堂、宝文館は元気に営業をしていた。

また、芦屋宝盛館の抜井氏とみどりや書店の森氏も記者とともに阪神間を歩いた。阪急西宮北口南のアイビー書房は更地になっている。全壊の青楓堂書

店が阪急夙川センター商店街で仮店舗で営業を再開していた。3月28日という比較的早いタイミングでの再開である。ところがその環境はあまりにも厳しい。というのも商圈では30%の家しか残っておらず、人口減少が著しいのである。残った住民も苦しい経済状態で、生活基盤の立て直しに精一杯が実情。森氏は「経済環境が激変したという事実だけでも理解していただきたい」と語る。

◆義援金の収支報告

平成7年10月16日に開かれた、兵庫組合の定時総代会で、阪神大震災対策協議会・安井実行委員長は、以下のように義援金の報告を行っている。

収入

対策協議会より受けた義援金は、

1回目	11,950,000円
2回目	6,550,000円
3回目	100,674,205円
4回目	1,500,000円
5回目	3,885,531円
ハリマ支部より2回分の合計	650,000円
出版社・書店より	585,500円
兵庫県中小企業団体中央会より	120,000円
その他	162円
合計	125,915,398円



書店新聞7月26日

支出

組合員への見舞金 (1店あたり5万円)	11,950,000円
非組合員への見舞金	6,550,000円
被害に対応した補助金	102,050,000円
保証小切手作成費	28,325円
配布費用	100,000円
子どもに本を贈る会負担運賃	40,000円
残金	5,197,073円
合計	125,915,398円

そして、仲間たちの友情と激励は「本屋をしてよかった」「組合に入ってよかった」との声となつてかえってきた。この出版業界の一つになった気持ちを大切に育てて、さらに組合活動を展開していきたいと述べている。

◆震災から一年

1996年1月24日の日書連理事会では、震災1年が経過したのを受け、安井・抜井・村田氏が、業界の激励と支援に感謝を表した。また、復興状況として、組合員のうち15店が再開のメドが立たず(非組合員を含めると30店)、数店は廃業。営業を再開しても、被災者は避難や仮設の生活環境にあると苦しい現状を述べた。

◆そして、20年後の現在

この20年で大きく変わったことがある。

震災直後、各家庭の電話が不通になり、親類や知人に自分たちの安否を伝えるために、人々は公衆電話で長蛇の列を作った。

阪神・淡路大震災を契機に、安否だけでなく非常時の連絡用に携帯電話が一気に普及した。当初は電話機能だけだったものが、メールやカメラ機能が付き、通信量や料金体系が変化し、現在はインターネットが自由に使えるスマートフォンが主流となっている。

またパソコンの普及もこの20年で大きく変わっ

ている。技術の変化は、よりコンパクトに、より安価となり、デスクトップ型からノート型へ、現在ではモバイルタイプで持ち運びも手軽になってきている。

これら携帯電話、パソコンの変化は、在庫管理、書誌検索、発注など我々の書店業務を軽減させ、ベテラン社員のスキルを身近なものにした反面、書店員の能力を低下させると共に、店舗の独自性が失われた。

売り場においても、店舗が大型化し、椅子が置かれ、検索機の設置や、喫茶店や雑貨店との複合化など、大きく様変わりしてきた。

小学生から大人まで人気だったテレビゲームも、技術の進歩とともによりリアルに臨場感のある画面となり、ゲーム専用機だけでなくパソコンでも大きく普及し、携帯電話やスマートフォンにも搭載されている。最近では電車で本を読む姿が見られなくなり、多くの人が手で携帯電話やスマートフォンを操作している姿をよく見る。

さらに電子技術の進歩は、電子書籍としてリアル書店に影響を及ぼし始めている。特にコミックの分野においては、電子書籍売上げの多くを占めるようになった。今後電子書籍はますます広がると見られ、教科書や教材においても普及されることが見込まれている。

しかし、変わったものばかりではない。インターネットの情報とは違い、改ざんできない、形のあるものとして残る書物は、文責のある確かなものとしてなくなるものではないし、変わってしまうものでも決してない。

そして、まちの本屋は地域の情報発信基地として、知識の泉として、また交流の場として、子どもたちの成長を見守り、地域とともに寄り添い歩んできた。その思いをこの震災を通してより強く認識した書店も少なくはない。今後もお客様のありがたうの言葉を糧として、地域に根ざした店作り、営業を続けていきたいものである。

他の業種にはなかった素早い支援 取次会社の奮闘

書店の復旧・復興は、取次会社の力を抜きにしては語れない。取次は、地震直後、迅速に対策チームを立ち上げ、日本各地からマンパワーを注入。取次と書店の関係が大いに活かされた。書店復旧に尽力した取次の3氏に、当時の話を聞いた。

日本出版販売(株) 広瀬精司氏

<当時は、日本出版販売 神戸支店長>

1995年1月16日夜から有馬温泉(神戸市北区)で神文館の新年会に参加。地震後、有馬から明石市にある神戸支店に向かう途中、長田の火事を目撃する。ようやく通じた電話で、神戸支店の社屋の被害はさほどではないと聞き、芦屋の自宅へいったん帰宅した。

関西本部(大阪支社)に緊急対策本部が設けられた。現状把握には1週間ほどを要した。伊丹から須磨辺りまで、ほとんどの書店は「休業」の張り紙が貼ってあり、中の様子は分からない。兵庫県内140軒のうち、新長田で1軒全焼、全壊15軒、半壊5軒(合計21軒)が大きな被害を受けていた。

(株)トーハン 渋谷鉄夫氏

<当時は、トーハン 神戸支店 総務係長>

神戸市灘区の自宅から神戸市中央区にある神戸支店へ、6時30分ごろマイカーで出発。2棟あった社屋のうち、昭和36年



に建ったビルは破損が激しかった。店売のある2階は、床に平らに思えるほどの本の海になっていた。1階は12本ある柱がすべて、上の圧力か、ひしゃげた状態になっている。この建物は1年後くらいに潰した。当日出勤できた社員は24人中半分くらい。安否確認ができずに、避難所を捜し歩いたりもした。

2月20日現在、神戸、明石、三木、芦屋で、再開147軒、2月中再開見込3軒、3月に再開見込9軒、4月以降1年以内見込みが5軒、意欲はあるが再開未定10件、廃業・店舗再開見通しつかず1軒という記録がある。

(株)大阪屋 平井克司氏

<当時は、大阪屋 神戸支店長>

川西市の自宅からすぐ車で神戸市兵庫区にある大阪屋神戸支店に向かったが、渋滞と倒壊、道の破損でたどり着けない。翌日、食料を用意し、朝5時に車で出発、川西から三田へ抜け、有馬街道を南下して神戸支店へ着いた。

6階建ての神戸支店の倉庫兼展示場にしてた2階は棚がすべて倒れ、屋上に上がると、看板が落ちかけて危ない状態。屋上から西方向を見ると火事の煙が上がっている。支店内のことは後にして、次長とともに書店を回ることにした。

2月21日の段階で、廃業店は2店、再開できて



いない店は8店、戸板販売が2店というメモが残る。



◎対策本部設置、現状把握

地震発生後、早急に対策本部を設置、他地域からの応援を得ながら、書店の調査に取りかかった。人的被害がないか、建物が無事か、店内には入れるか、棚が倒れていないか、商品の状態はどうか、水濡れしていないか、どのくらいで営業再開できそうかを表に書き込んでいった。

各社とも、大阪から西へ向かうチームと、神戸の西から東へ向かうチームを作っている。

平井氏が「道路事情が悪くてどこに行くにも難儀



した。自転車が便利だった」と言うように、自転車、オートバイが機能した。広

瀬氏は「自転車で走ると、埃で髪が白髪のようになった」と苦勞を語っている。

◎応援を送り込む

各社とも現状把握のかたわら、書店へ人員を送りこんだ。倒れたり傷んだ棚を修理する、本を拾い集め、棚に戻したり返品用に箱に詰めたり、再開に向けての作業である。これについては、多くの書店から、「大いに助かった。こんなに早くに対応してくれるのは、書店の取次だけだ。ほかの業種ではこんなに素早い支援はない」と喜ばれたという。

日販は地震翌日から100人前後の態勢で、トーハンでは25人が2週間交代で、大阪屋も30人で20日間ほどの支援隊を編成した。「余震が来たら頭上からコンクリートが落ちてきそうで近寄れない」と平井氏が言うように、二次災害を受けないよう注

意しながらの作業が続いた。

応援も後半になると、全壊・半壊の書店から本を取り出し返品する作業に追われた。渋谷氏は「本社から支援物資と一緒に熊手が送られてきた。これで本をかき出せということだった」と苦笑する。

店の前に戸板をおいて雑誌や本を並べて販売した書店もあり、広瀬氏はその光景に「感動した」と



しみじみ語った。

復旧活動で全国から来た応援への気配りも必要だった。日販は神戸支

店の近くの家を借り切って、共同生活をした。トーハンでは海員会館を早々に確保、社宅も開放した。また、早朝からコンビニエンスストアを回り、水や食料を調達するチームも必要だった。

◎出版社の返品対応

各取次は、出版社が返品に最大の配慮を示した点に、感謝の意を示す。火災に遭った書店の場合など、本の在庫数と、コミック・文庫・雑誌など本の種類の割合を推測し、出版社ごとの数をシミュレートし各出版社にお願いするような例もあった。大手の出版社のほとんどは、この要請に応えた。取次が一緒になって出版社に申し入れたのが効を奏した。「出版社の景気が良かったせいもあるのでは」と広瀬氏は分析する。

箱に詰めて店名だけ示せば、当時は手書きだった返品伝票がなくても処理した(渋谷氏)。水濡れした本も箱に詰めて、大阪本社に持ち込んで処理できた(平井氏)。



地域に根差す書店として何ができるか 復旧から復興へ、兵庫から発信

被災書店が復旧、復興に勤しんでいる間に、出版界は大きな変動を経験しました。小売の書店では、大型書店の出店ラッシュやチェーン展開、コンビニエンスストアの乱立、新古書店による価格競争、ネット通販の出現、電子書籍の開始、拡充、そして、中小零細書店の相次ぐ閉店。中小出版社や取次も倒産、廃業を余儀なくされました。

また、デジタル環境や検索サイトの改善や充実により、情報をインターネットに求めるようになりました。現在では、スマートフォンの使用により、手元にコンピューターを保持することとなり、人が生きていく時間の争奪戦に陥り、動画もあるネットにアナログは押され気味です。これこそが活字離れの最大の要因ではないかと思えます。

復旧、復興を成し遂げても、荒れ狂う大海に流され、おぼれる危険が迫る中、兵庫県書店商業組合では新しい取り組みを二つ行いました。

◎大切な人に贈りたい本は

まず第一は、サンジョルディの日のPRです。本を贈りあうイベントとしての、サンジョルディの日を広く一般読者の方々に認知してもらい、定着させるために、兵庫県出身もしくは在住、あるいは関わりのある著名人に「大切な人に贈りたい本」を1点推薦（推薦理由も含む）していただき、冊子を作成し、お客様に店頭で配布しています。

平成25年度には、井戸兵庫県知事を筆頭に、作家、著述家、大学教授、財界の重鎮、芸能人や

アナウンサーの22名の方に、そして、平成26年度には、スポーツ界や宗教界からお力を得て、23名から推薦の図書をお出しいただきました。組合店舗では、冊子を配布するだけでなく、推薦図書による「サンジョルディの日フェア」を開催し、店頭を盛り上げました。兩年とも、神戸新聞の記事として取り上げていただき、大きな反響がありました。



◎HATの会が立ち上げた「ざんまいシリーズ」

今一つは、ざんまい（三昧）シリーズ事業と称して、テーマを一つに絞り込み、店頭での本の販売、講演会、そして、バス旅行を行う事業です。

兵庫県書店商業組合として、新しい切り口で書籍の販売を考える「HAT (hyogo commercial union bookstore activation team の略) の会」を平成23年度に立ち上げ、ざんまい（三昧）シリーズ事業の企画立案にまで漕ぎつけました。この事業を遂行するには、神姫バス株式会社のグループ会社による書店・レンタル事業の店舗が組合員であったこと、そして、神姫バスツアーズ株式会社様のご尽力がなくてはならない存在でした。

平成24年度は、古事記編纂1300年を祝し、「古事記ざんまい」を企画しました。まずは、「古事記ざんまい 上つ巻 古事記の世界に触れるブック

フェア」を組合書店で、9月21日～11月15日に開催しました。引き続き、「古事記ざんまい 中つ巻 古事記で日本を知る講演会」と称し、11月21日に、講師として、『わかる古事記 日本を読もう マンガ遊訳』（村上ナツツ／著、つだゆみ／マンガ、西日本出版社）の監修を担当された村田右富実氏（大阪府立大学教授）をお招きして、「神々の求婚～『古事記』と妻問ひ」と題し、講演会を神戸市産業振興センターにて開催しました。各書店から募った聴講者は百人を超え、大いに熱のこもった講演会になりました。そして、「古事記ざんまい 下つ巻 古事記の世界に触れるバスツアー」を12月上旬に開催し、合計62名のお客様と書店員が、古事記の始まりの地の淡路島を巡りました。

平成25年度は、平成26年度のNHKの大河ドラマが「軍師官兵衛」と決定していましたので、「読んで、聞いて、行ってみて 官兵衛ざんまい 天下を翔けた男・軍師 黒田官兵衛の世界」を企画運営しました。古事記の場合と同様に、「官兵衛ざんまい 一の陣 官兵衛の世界に触れるブックフェア」を10月から各書店にて開催しました。そして、11月23日に、播磨学研究所所長で、官兵衛の著述もある中元孝迪先生による、「官兵衛ざんまい 二の陣 官兵衛の生き様を知る講演会」を神戸市産業振興センターにて開催しました。最後は、「官兵衛ざんまい 三の陣 官兵衛の足跡を訪ねるバスツアー」で、放送の始まった直後の1月18日、25日の両日で106名の参加があり、ツアーでの学びが官兵衛の視聴に繋がったのは間違いありません。

このようにリアル書店ならではの事業を、兵庫県書店商業組合として企画運営することが地域に根ざす書店としての活動になると信じています。



◎日々の販売がライフラインを生む

最後に、震災を経験した書店と地域の結びつきへの雑感を記します。

我々は毎日、入荷する商品を陳列し、棚を形作り、地域のお客様のご来店を待ち、多くのコミュニケーションを育みながら商いをしています。一度、自然災害が発生すれば、店と顧客の関係を越えて、地域人として援け合う関係へと変わります。私たちが援ける立場になった場合、即座に立ち上がり、可能な限り、地域の人々の復旧へ力を捧げます。人と人の命を繋ぐ、本当の意味でのライフラインを担えるのは、地域で営業しているリアル店舗の「人」です。その後に、自店の再開に注力し、再開後は書籍・雑誌の販売により、情報の発信・伝達で援助することが出来ます。

ネットの時代になったとはいえ、電気の供給が見込めない間は、アナログのモノとしての書籍・雑誌が効力を発揮するはず。日々の販売こそがライフラインを生むそのものであることを肝に銘じ、日夜営業に勤しみたいと考えています。

(井戸書店 代表取締役 森 忠延)

阪神・淡路大震災を振り返って 22人のメッセージ

※名前の下の〈 〉は当時の所属・役職です

感謝

第5支部 安井書店(宍粟市) 安井克典
〈阪神大震災対策協議会実行委員長〉

私にとりまして、阪神・淡路大震災は、救援活動に携わっていただいた方々、いろいろとご後援をいただいた方々に対する、感謝、感謝、感謝、感謝であります。

そのときにいろいろとお世話になりました方々の名前を列記して、感謝の表意といたします。沢山の醸金を頂戴いたしました。まず、小学館・相賀昌宏社長、三笠書房・押鐘富士雄社長、講談社・野間佐和子社長、集英社・若菜正社長をはじめ、数百社に及ぶ業界の方々。大震災直後の日本書店商業組合連合会の新年総会で、日書連より巨額の援助金醸出を決議していただきました。その上最後まで献身的なお世話をいただきました、日書連の小沢淳男会長、白幡専務理事、大川事務局長、田中書店新聞編集長、石井総務部長。さらに地元で受け皿として立ち上げていただいた阪神大震災対策協議会の会長・森川勝敏氏（大阪組合理事長）、山田光治郎氏（滋賀組合理事長）、片山修己氏（京都組合理事長）、辰巳寿一氏（奈良組合理事長）、大咲秀蔵氏、今西英雄氏、三軒繁夫氏（以上大阪組合）、大垣和央氏（京都組合）、村田耕平氏（兵庫組合）、大山克臣氏（大阪組合事務局長）。

出版社側からは、小学館田口氏、講談社滝沢氏、角川書店日比氏、保育社今井氏、教学研究

社小谷氏、受験研究社岡本氏。

取次側からは、トーハン・淵上氏、日販・武藤氏、中央社・奥田氏、栗田・草場氏。

以上の皆様を構成メンバーとして、対策協議会は迅速に活発な活動をしていただき、別稿の通り多大な結果が生まれました。これはひとえに、ここに列記させていただいた方々のお陰であります。厚く厚く感謝申し上げます。

災害にそなえて

兵庫県書店商業組合理事長 山根金造
第4支部 巖松堂書店(明石市)

私たちの住む地方自治体には、防災計画やハザードマップの作成が義務付けられ、地元の自治会でも危機管理体制について自治会規約に定めがあります。

しかし、阪神・淡路大震災や東日本大震災のような巨大災害にすぐ対応できるのでしょうか？

まず、基本は一人ひとりが自分の身を守ること。津波や洪水に対しては、「まず逃げる」ことを第一の行動指針としてください。

自宅、職場から一番近い避難所はどこにあるのか。その避難所はどのようなしくみになっているのか。いざというときの家族の安否確認の方法は？

書店の従業員やパートさん、アルバイトの学生さんの安否確認の方法は？

兵庫県書店商業組合として、組合員の安否確認方法は？

これらの項目について、それぞれの単位でしっかり話し合い、確認することが大切です。

兵庫県書店商業組合でも、危機管理体制があまり進んではいませんが、現役員で十分話し合い、組合員の理解を得て、災害に対するそなえをしっかりと定めていく所存であります。

“災害にそなえて”では、私の友人で、2014年に亡くなられた黒田裕子さん（阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長）に多くのことを教えていただきました。黒田さんの著書（共著）として『災害看護 看護の専門知識を統合して実践につ

なげる』（酒井明子、菊池志津子編 南江堂 2008年）

『災害と共に生きる文化と教育〈大震災〉からの伝言』（岩崎信彦、田中泰雄、林勲男、村井雅清編 昭和堂 2008年）

『ボランティアが社会を変える 支え合いの実践知』（柳田邦男、黒田裕子、大賀重太郎、村井雅清共著 関西看護出版 2006年）

『災害看護 人間の命と生活を守る』（黒田裕子、酒井明子監修 メディカ出版 2004年）

を紹介します。これからも黒田さんの遺志を心に持ち続けてまいります。

阪神・淡路大震災で 思い出すこと

第1支部 三宮ブックス(神戸市中央区) 村田耕平
〈兵庫県書店商業組合専務理事・事務局担当〉

阪神・淡路大震災からまもなく20年の歳月が流れる。地震の恐怖感も感慨も風化しようとしているし、被災した私ども書店人も自然現象や廃業他で少なくなってきた。その間に日本全国各地で多くの地震や自然災害が発生し、特に2011年3月11日の東日本大震災の大被災は阪神・淡路大

震災をはるかに凌駕するものとなった。人は常に目新しいもの、また、ものごとの大小で関心が動くことを考えると阪神・淡路大震災の風化もやむを得ないのかもしれない。

今後南海トラフなど大きな自然災害が予測されているが、この「20年誌」で記録される情報を業界の礎として今後役に立ててほしいものである。

災害発生時、取次会社の方々は店舗の修復に数々の支援を惜しまれなかった。アクセスが不自由な中、動いている路線を利用し、何班にも分かれて支援に駆けつけてくださったし、その折に社員の奥さんから弁当や水の差し入れまで持参される方もあり、衣服の提供もあったとも仄聞している。

また出版社の代表者の方々も東京から多く見舞いに来てくださった。大阪から神戸港まで船を利用してみえた方も多かった。こうした出版業界挙げてのご支援を被災書店にいただき、この業界に籍を設けていて本当に良かったなという思いだ。

災害はいつ発生するかわからない。その時の準備はどうすればよいかを普段から考えておかなければならない。取次会社と常時密接な関係を築いておかなければならないが、非常時での処方箋は簡単なものではない。書店組合でもその組織の中で非常時対策は当然考えておかなければならない。20年の記録を編むとき、その反省と今後の対処を心より願うものである。

最後に、阪神・淡路大震災時に被災書店を支援いただいたすべての方々に、改めて心からお礼を申し上げます。義援金や救援物資を賜った方々、残念ながら鬼籍に入られた方々の御霊に心よりの祈りと感謝の念を。病に伏せておられる方々にお早いご快復を。自由人になられた諸先輩の方々には、ご健勝を心から願います。

自然の中で生かされている

第1支部 流泉書房(神戸市須磨区) 大橋洋子

1月17日、午前5時46分。地震というものを経験したことのない我々はまるでミキサーの中でかき混ぜられているような状態の中、なすすべもなく、揺れがおさまるのを待つしかありませんでした。何が起きたのかわからないまま外を見ると、無声映画のような光景に、あちこちで火の手が上がっていました。時間がたつにつれ、地震というものがこんなにも想像を絶する被害を引き起こすものだという現実をつきつけられました。

流泉書房三宮本店は地下1、2階にあり、当然、本はすべて飛び散らかり、スプリンクラーの作動で店内水びたしの悲惨な状態でした。三宮に入ることさえままならないにもかかわらず、各取次・出版社の皆様が応援にかけつけてくださり、どれだけ心強かったことでしょう。皆様の優しさが心に染みしました。おかげでやっと店の再開のめどがたった時、ビルに大きなヒビ割れが発覚し、三宮本店は苦渋の決断で撤退という道を選ばざるを得ませんでした。

そんな中、被害の少なかった支店は、多くのお客様で、特に地図の売れはすさまじく、大変助けていただきました。

今思うと地震の10日くらい前から犬たちは変な夜鳴きをし、月は見たこともない色でかがやき、鳥、猫、イノシシさえもどこかへ行っていました。動物はきっと変化に気づき、人間に警告をしてくれていたのだと思います。動物たちが町にもどってきてくれた時の感激は忘れることができません。

今一度、自然の中で人間は生かされているということを認識するべきだと思います。

震災で得た最大の教え

第1支部 井戸書店(神戸市須磨区) 森 忠延

2011年3月11日、予想だにしないといつもない自然災害・東日本大震災が発生しました。阪神・淡路よりも規模も被災範囲も広く、本にとって難敵の水(津波)のパワーに驚きました。配達中でしたが、車を路肩に停めてのテレビの映像が20年前の記憶を蘇らせ、見ているだけで滂沱の涙でした。

1995年当時の私も目の前に広がる現実としての、甚大な惨状と火災の嵐に茫然としたものです。店は辛うじて無事でしたが、通路には本がテコ盛り状態で、配管がずれて、書籍は水浸し。停電が続き、シャッターを開けて、太陽光頼みの昼間だけの復興作業に携わり、トーハンさんの応援のお蔭もあり、幸いにも1週間で再開にこぎ着けました。あの時はデジタルがほぼない時代、また、停電が続く中、テレビも観られず、ラジオ、新聞とともに、雑誌の存在は大きかった。あらゆる情報の総括の意味も込め、震災関連の週刊誌や月刊誌も飛ぶように売れました。

再開店からすぐの時期、交通インフラが寸断している中、六甲の山を北から越えて、昭文社の牧野さんが来られました。背のリュックに神戸市の地図を満載していました。「これを積んでください」これほどの感動の営業はありません。原形を留めず、焦土と化した街並みに地図が不可欠でした。すぐ完売し、追加のフォローも迅速でした。

次に注目したのは原付バイクの問題集でした。交通手段が皆無の中、小回りが利き、低コストな乗り物に被災された方の需要が集まりました。通常なら平積商材ではありませんが、衰えぬニーズがありました。

ここで冷静に考えました。当店に来店されているお客様は「全て被災者」という属性を持った方々。避難所で被災者の欲しいものが時系列で変化したように書店でも変わるはず。お客様が復興するまでにどういった情報を欲するかを想定して注文しよう。そして、「被災されたお客さまの棚」を作り、そこには法律関連本、住宅再建への書籍、支援していただいた方々へのお礼の手紙の書き方などの実用書等々、様々な書籍を並べました。そして、総仕上げは震災写真集や震災ドキュメントビデオの販売でした。この2点は支援へのお礼にされた方が多く、「私たちが受けた震災の記憶を忘れないで欲しい」という思いが一杯詰まっていたに違いありません。

この一連の販売を通して、震災で得た最大の教訓は、「モノではなく、ヒトにフォーカスせよ!」でした。それまでは業界の売れ筋を追いかけ、新聞の広告が販売につながるビジネスモデルに翻弄されました。震災後は、「当店にお越しのお客様は誰か?」という問いから始まり、どんな書籍を選ぶのか、そして、いかに編集し、棚作りをするのかを考えるという独自のモデルに落ち着きました。禅語での「脚下照顧」です。自らの店を見直す絶好の機会を与えてくれました。

20年前から携帯電話が普及し始め、インターネットの利用者も増え、通販の隆盛、デジタルの浸透が加速し、活字離れに相まって、業界の売上高も右肩下がりの連続ですが、震災でのもう一つの学びは、「リアルなつながりこそが地域の活力であり、地域でなくてはならない店づくりの根本である」ということです。

阪神・淡路大震災の当日朝、自店を見に来た後、帰宅する途上、店に隣接する板宿市場のなじ

みのパン屋さんで、「大丈夫ですか?」と声をかけると、「家の方が心配やから、もう店閉めるから、要るもんあったら、お金要らんから、パンやら飲み物やら何でも持って帰ってや!」との返答。さすがに、そんなことできませんので、お支払いしましたが、「困った時に助けるのは知っている人から」は当たり前。それを思うと、常日頃からの関係の深さの大切さを身に染みて感じました。挨拶一つだけでなく、日常において、どこで買うかの意味が非常に効いてくるのです。我々、小商いのリアル書店は、お客さまとの小さなつながりを維持しながら、店を開き続けていますが、災害時には、主客の区別を超えて、お互いが瞬時に援け合える存在なのです。インターネット通販では、リアルの毎日の人間関係の心の襞まで読み取れない、しかも災害時にすぐに被災者に寄り添い、援けることが出来るかを想像すると、リアル書店の価値が評価できます。

20年の時を経て、震災から復旧、復興の道を着実に歩み、激変する外部環境の影響を受けながらも、リアルの存在の大きさを自店のある地域でいかに表現するかが問われ続ける課題と思います。いつどこでいかなる災害が起きるかは、天のみぞ知ることですが、「風来たって、自ずから門開く」の如く、日々の仕事の積み重ねが店の存続には左右するはずで、前を向いて、地域と一体となる店づくりにこれからも励みます。

震災後20年を振り返って

第1支部 ジュンク堂書店三宮店(神戸市中央区) 秋定里枝

1995年1月17日、阪神・淡路大震災は起こりました。震災直後は、一日一日を過ごすのがやっとという感じでした。しかし、あんなに大変だった記憶が薄れてきています。20年という時の

流れは、震災で傷ついた気持ちを、和らげてくれるのだと思いました。

震災の時、ジュンク堂三宮店は、地下1階にありました。普通では簡単に動かない、本の詰まった棚が地震で持ち上がり、本が棚の下敷きになったり、飛び出して散乱したり、スプリンクラーが作動して水浸しになったり、本当に悲惨な状態でした。一日でも早く再オープン出来るよう、みんなで協力し、復旧作業をしたのを覚えています。

20年経ったとはいえ、まだ、景気は良くなりません。しかし、以前と変わらない人通りが、三宮センター街に徐々に戻ってきているように思います。これからも、地域活性化に役立つ努力をしていきたいと思います。

家族の存在を再認識

第1支部 香山書店(垂水区) 香山芳範

眠っていた布団ごと下から突き上げられ、数十センチ飛び上がったように思われた瞬間、すさまじい横揺れが襲いかかり、私の中では数分続いたように思われ、いつ揺れが収まるのか不安に駆られながら子どもたちの名前を呼びました。幸い家族7人怪我も無く無事でした。

1階の店舗に降りると、棚からすべての本が落下して本の海になっていました。ライフラインがすべて止まっていたのでシャッターを半分開けて、落ちた本を棚に戻す作業をはじめ夕方ごろ電気がつきましたが作業に3日かかりました。

余震が続くなか家族全員が1部屋に集まってカンタンな食事をし、まだ小さかった子どもたちも店のかたづけを手伝ってくれました。親も子もお互いの視界の中に相手がいることを無意識に確認していたように思われます。

1週間ほどして東京からの荷物が届くようになりま

したが、テレビも新聞も震災のことだけだったせいか、震災以外の情報を求めて雑誌やコミックが良く売れました。もうすこし落ち着いてから新聞社の震災写真集が発売になり大変売れましたが、震災で被災された方のことを思うと複雑な思いを持ちました。

震災直後に交通事情の悪い中、水とパンを持ってきてくださった日販の神戸支店の方に感謝。

そして全国の書店の仲間、出版社様からの義援金ほんとうにありがとうございました。

東日本大震災で被害にあわれたすべての書店さんにお見舞いを申し上げます。

本屋の存在意義を痛感

第1支部 海文堂書店(神戸市中央区) 福岡宏泰

姫路より西の網干に自宅がある私が元町に入ることができたのは、震災から3日目の1月20日でしたが、交通機関の断絶で帰宅することができず、結局10日間余り、近くの避難所に泊まらせていただくことになりました。

海文堂書店の建物はなんとか持ちこたえていたので、無事だったメンバーが再開に向けての作業を続けましたが、この時ほどみんながひとつになって力を合わせたことはなかったと思います。取次会社さんや出版社さんから物心両面のありがたいご支援をいただいたこともあり、神戸の書店のなかではいち早く1月25日に店を開けることができました。衣食住の危機的な状況下にあって本を求める方はいらっしやらないのではないかという思いに反して本当にたくさんの方にご来店くださり、本屋の存在意義を痛感しました。

海文堂は無念のうちに閉店しましたが、本やリアルな書店は必ず必要とされるものと考えています。書店のみなさま、踏ん張ってください。

震災経験者の願い

第1支部 海文堂書店(神戸市中央区) 平野義昌
 (震災時は三宮ブックス勤務)

小さな本屋は潰れずにあった。
 自分たちが残っている事が不思議だった
 社長と二人で一冊一冊拾って棚詰めした。
 取次応援隊が来てくれた。
 いただいたお弁当に胸が詰まった。
 再開できて、お客さんに本を手渡せた。
 通勤途中、崩れた町並みに涙が出た。
 人々は徒歩で動いた、代替バスに並んだ。
 元の生活に戻るために必死だった。
 ボランティアと義援金に感謝する。
 急ピッチでビルが壊され、新しく建った。
 人間の心の復興は成っただろうか。
 大きな災害が続いている。
 東北では地震・津波、それに原発爆発。
 励ましの言葉は言わないと決めている。
 20年経って、私は本屋でなくなった。
 でも、本屋の皆さんの活動を、微力だけれど応援したい。
 ひとつだけお願いをする。
 震災の本を一冊でも置いておいてほしい。
 記録を残し、記憶を伝達するために。

阪神・淡路大震災の思い出

第2支部 宝塚書店(宝塚市) 柴田克也

朝、テレビのスイッチを入れると、画面に神戸市長田の火災の様子が映し出されました。その前に、寝ている下を地下鉄音のゴーと揺れが家の下を通過していきました。テレビでは、「神戸一帯に地震がありました」とのアナウンス。私には、まだ分からない状態でした。

その時は茨木市に住んでいて、宝塚の店に車で通勤していました。親兄弟は、宝塚に住んでいました。すぐに電話をしましたが通話ができない状態。すぐに車でR171を走り、池田市を通り、R176で猪名川大橋を渡ると、家が倒壊して国道(R176)上は、倒壊した瓦礫、アスファルトの隆起した状態がつづいて、宝塚の駅に近づけば近づくほど国道の瓦礫が散乱し、車がまともに走行できる状態ではありませんでした。

宝塚の店中の状態は、棚の本はすべて通路に、壁の棚はそのままでしたが、中央の棚が倒れていました。親兄弟は、無事でした。ガス、電気、水道すべて不通、電話は、通話することができました。店の整理をし、その日は、それで終わりましたが翌日からが大変でした。店のまわりでは、家が倒壊、半壊しており、住人の人々が公衆電話に行列をして人々が何もできない状態であふれていました。

店を開店しようかどうか迷いましたが、開店しました。が、仕入をするのに日販はダメ(東京からトラック便の為)、中央社は、大阪吹田の支社まで配送がきているので取りにこられるのであればどうぞ(東京からJRの為)とのことでした。約1週間ほど車で仕入れに行きました。

まわりの状況が少しずつ分かりはじめ、主要交通機関(JR、阪急等)はすべてだめでした。利用できる交通機関は、車のみ。そのため国道は渋滞、脇道は瓦礫で通行禁止。この上にライフライン(ガス、電気、水道等)工事が重なり、茨木の家より通勤に片道4時間ぐらいかかりました。今思えばまだ私は、ましなほうだと思います。店も親兄弟の家も無事だったのですから。

気になる南海地震

第3支部 細見書店(尼崎市) 細見昌和

阪神・淡路大震災は「活断層」を認識させられた地震でもありました。

大きな縦揺れの一瞬、妻の肩を抱き寄せながら覚悟をした一瞬でもありました。幸いにして大きい揺れは長くは続かず安堵しましたが、一日中大小の余震が続いたと記憶しています。

発生時、外を歩いていた友人が、一瞬西の方が明るくなったと語っていました。聞き流していましたが、必然なのか、自然の謎なのか、今、考えても解りません。震源地からの距離があったため、尼崎市では家が倒壊するような被害は少なかったようですが、当方でも本棚が倒れたり、外壁が落ちる等被害があり、大変でした。

一般車両をストップさせて、復興への車両が国道2号を西へと進む光景が何カ月か続きました。都市部ということもあって予想よりも早く回復の道を歩んだと感じています。

地震列島日本。南海地震の想定が気になります。

阪神・淡路大震災と傘

第3支部 小林書店(尼崎市) 小林由美子

あれから20年になります。その間には東日本大震災も起こり、安全の保障など何もないのだという恐怖感はぬぐえません。

あの日わが家も、鉄骨三階建ての店舗兼住居の北側の壁がくずれ落ち、「半壊」との認定でした。雨が降るとそこから家の中に雨漏りがひどく、修理に800万円もかかるという大被害でした。売上も厳しい12坪の店。頭の中は真っ白になり「どうしよう、どうしよう」をくり返すばかりでした。

ただそんな中であって、多くの書店仲間、友人、

親せきの援助を受け、取次・出版社の方々からの応援をいただいたことは本当に力強いことでした。しかも、多くのお客さんが「こわかったね、おじいちゃんおばあちゃん大丈夫？」と声をかけて下さったのです。ご自分の恐怖心を一気に話して少しホッとされたように帰られる様子を見て、ああ本屋っていい仕事だなあ、絶対つぶせないなとはっきり思いました。

何とか乗りきるために、本屋を続けていける商材はないかと必死で探しました。そんな時『プレジデント』の中で、ある傘メーカーの社長のインタビュー記事に出会ったのです。「品質の良い傘を低価格で、日本中の人に自分が作った傘を持ってもらいたい」——これだ!と直感しました。なぜ本屋にこんな物が?と思われる物を取り扱わなかった。そうすればそこにお客様との会話が生まれます。自分の思い、作り手の思いを語ることができます。大げさでなく必死でした。失敗することはできない——どんな物も、作っている人は命がけです。片手間に扱っていいはずもなければ、片手間で売れるはずもない、そのことを改めて肝に銘じています。

おかげで、厳しいことには変わりはありませんが、力いっぱい作り手の思いを伝える販売員でありたいと、元気ががんばっています。あの日、失った多くの尊い“命”と、“志”を決して忘れないように…。

茫然自失を初めて体験

第3支部 三和書房(尼崎市) 中島良太

突然下から突き上げる衝撃に起こされ、何が起こったかわからないまま隣に寝ている次男の上に覆い被さって、別室にいる家内に声をかける。そのまま揺れが収まるまで身動きが取れない。時間にして

僅か数分だろうが、永遠に続くのではないかと思われるほどだった。割れたガラスや食器など部屋の片付けに昼近くまでかかり、まずは家近くの支店を覗くと、幸い自販機は倒れずにすんだものの店内は床一面に雑誌書籍が散乱していた。取りあえずそのまま放置し本店へ急ぐ。本店にたどり着くとまず目についたのは外壁のクラックと剥離、店内には床を埋め尽くす書籍、また書籍。階を上がるごとに被害は大きい。重く動くはずのない書棚が移動し、倒れ、消火器の粉末が飛び散っていた。何から手をつけていいかもわからず、茫然自失を初めて体験した。

翌日、トーハンや日教販の応援をいただき片付けを始めた。武庫川を挟み西宮側と比べると尼崎側の被害は幾分軽く、翌々日からは営業を再開できた。

トーハンさんや日教販さんの素早いご尽力のお陰と大変感謝しております。また、遠方よりお見舞いに来てくださった方々や、連絡をいただいた版元さんや書店仲間の皆さんには、励まされ、心強いお言葉をちょうだいいたしました。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

国生みの島・淡路島

第8支部 すみ孫(淡路市) 片山佳則

平成7年1月17日、<淡路の野島の崎の浜風に 妹が結びし紐吹き返す>と万葉集で柿本人麻呂が詠んだ旧北淡町野島から発生したあの大地震から20年が過ぎようとしている。第8支部は、震源地である淡路島が活動範囲である。

思えばこの阪神・淡路大震災は、商売的には鎖国状態で独立圏の「島」であった淡路島に「明石海峡大橋」という巨大な人工物によって「島」でなくなり、淡路島住民、書店経営者にとっ

ては経験したことがない、現在も続いている大震災以上の“激震”のプロローグであったのではないだろうか。

今の時点ではいささか驚きであるが、阪神・淡路大震災の発生やその3年後の平成10年に開通した明石海峡大橋が開通するまでは、島内にはナショナルチェーンのコンビニは一軒もなく、フェリー乗り場には人、トラック、車が溢れ、商店街は活気に満ちていた。我々書店業界も鎖国的な状況であったとはいえ、それなりに繁盛していたのである。衰退の原因をすべて、大震災のせいにするわけではないが、大震災と大橋の開通の二つが大部分を占めるのは否定しようがない。大震災という、神の領域である自然現象は、国生み神話で日本最初の島といわれる淡路島を島ではなくし、神の領域に手を出した我々への警告であったのではないか。

20年に際して

第8支部 仲井書店(淡路市) 仲井敏子

経験したことのない激しい揺れが大災害をもたらした阪神・淡路大震災から、20年が経ちました。当店は、淡路島の震源から最も近い地域にあります。幸い建物の全壊は免れましたが、店内は、壁に取り付けた長い書棚ごと吹き飛んだ本がうず高く積み、足の踏み場など全くない状態でした。

様々な方面から協力を得て、店内の復元ができたのは10日余り後でした。地震直後に地域に入っていた自衛隊やボランティアの方々によって、図らずも田舎の小さな書店に、プチ特需ともいうべき状況があったことなども思い出されます。

面的被害が大きかったこの地域では、すぐに土地区画整理事業による復興が決定しましたが、様々な問題と課題を抱えつつ事業の完成に10年

程かかりました。その間、人口流出に歯止めがかからず少子高齢化なども相まって、完全に過疎の街となってしまいました。その中であって当店も、売り上げ激減など悪戦苦闘を強いられております。20年にして、改めて震災の影響が大きいことに気付かされます。東日本大震災の被災地でも同様に、復興には色々な課題があると思いますが、何とか良い方向に着地できるようにと願うばかりです。

書店の強さを感じた 阪神・淡路大震災

(株)講談社 メディア事業局局長 巴 一寿

あの朝、バッファローの大群が押し寄せるような地響きで目が覚めた。そして、私のマンションも被災し、いつか飲もうと思っていた大切な酒もサイドボードごと木端微塵。カーペットの野郎が飲み干しやがった。酔うこともできねーくせに。

当時、関西支社に勤務していた私は、その後、人生観が変わる光景を目にすることになる。

震災直後は交通機関も麻痺。しかし、少しすると大阪天保山から神戸までシルフィードという観光船が動き出す。東京の本社から支援物資を大量に仕入れ、兵庫の書店さんへ激励に向かう。船は朝7時に出航。必ず乗船するために真冬の早朝から埠頭に並ぶ。帽子、デニム、スニーカー、ダウンジャケットに大きなリュックを背負い、両手にはキャスター付のバッグ。書店さん用に大量の水や缶詰、手ぬぐい、そして自分用の昼食の菓子パンを詰め込んだ。夜の神戸発の船便で大阪に戻るまで、ずっと神戸市内をバッグを引きずりながら歩いて廻った。何日も何日もこの生活が続いた。毎日早朝に出て深夜に心身ともボロボロに疲れて帰る。いつものスーツ姿でない私を見た近所の方が何人

も家内に言ったそうだ。「ご主人、震災で仕事変えたの?」。

神戸の街は衝撃的だった。社会科の教科書の写真で見た空襲後のようだった。とにかく歩いた。途中、お年寄りが駆け寄ってきて「この潰れた建物に家族がいるの、一緒に助けて」といわれ瓦礫を掻き分けた。お世話になっていた書店が倒壊していた。無事だった書店の奥さまと話すうちにお互いに泣きあった。ただただ、手を取り合いながら泣いた。地下街にあった書店は水没していた。書店の天井に本がいっぱい浮いていた。また、泣いた。

あれから20年。しかし、人間の強さを感じた。兵庫の、神戸の人たちの強さを感じた。地域に根差す商売だからこそその書店の強さを感じた。声を掛け合い、「復興」を目指し、地域社会を牽引する地元企業の強さがあってこそこの今であろう。東日本大震災の復興を真っ先に応援するまでに至る強さと優しさを、兵庫の皆様は持ったのです。そして、この経験をして私も少しだけ強くなったのかも知れません。

「頑張ろう神戸 私たちの町だから」

(株)文藝春秋 営業局長 山本喜由

阪神・淡路大震災当時、36歳の私は兵庫県営業担当でした。

明日にも現地に駆け付けたい焦りの中で、社のGOサインが出たのは大阪～神戸間のバス便運行が効率化した10日後あたりでした。「女性店員さんたちは復旧作業の中で洗髪ができなくて困っている」という話を聞き、社周辺の薬局を梯子して医療用のドライシャンプーを買占め、上司と2名、はやる気持ちを抑えながら東京を後にしました。

午後、大阪の書店さんを廻った後、翌朝バスで

神戸入り。「立ち入り禁止」の柵が巡らされたセンター街に言葉を無くしました。ジュンク堂ブックセンターの非常階段を上り、裏口からお店に入ると、埃をかぶった革ジャン姿の工藤社長が大阪屋さんや書店員さんたちと倒れた柵を立て直す作業の真っ最中でした。

上司と元町方面へ歩き、倒壊した日東館に寄り添うように立てかけられた横長の巨大な「文藝春秋」の看板に息を呑みました。

そして神戸トーハンで森崎支店長と面談。そこに宝文館の故・柏社長が来られました。「これからどこに行くの?」「市営地下鉄の途中駅から西神中央方面へ」「長田地区を抜けて行くことになるから、私が案内しましょう」。

まだ煙が燻る長田地区を柏さんと歩きました。「仏さんを捜して懸命に瓦礫を掘るご遺族を、面白半分に写真に撮る不届きものがいるんや」と呟かれた怒りと悲しみの入り混じった柏さんの横顔を今も思い出します。

そして1週間後、営業担当役員と2名で神戸を再訪、復旧を進める多くの書店さんにお会いすることができました。

東日本大震災を経て、早や20年。海文堂の張り紙に大書された文字がいまも私の胸に刻まれています。「頑張ろう神戸 私たちの町だから」。

私と1.17大震災

日本出版販売(株)関西支社 係長 増野和則
 (日本出版販売 西日本流通センター注文課第4係係長)

時が経つのも早いもので、あの阪神・淡路大震災のあった日から、20年という月日が経ってしまいました。あの日、私は日販神戸支店で会議の予定だったので、神戸市垂水区舞子坂の自宅にて早

くから目をさまし、布団の中に入っている状態でした。

突然大きなトラックが突っ込んで来たかのような衝撃で思わず飛び起き、何ごとがおきたのか分からず驚いている間に、直ぐに余震が来たので、寝室にまだ布団に入ったままの妻と子供の居る寝室に戻り励ましあった事を思い出します。幸い家屋被害は少なかったものの生活インフラが全て閉ざされ、我が家では、蓄えの食材も無い状態でしたが、唯一嫁の実家が地震による被害が少なく、暫らくの間、大変世話になり感謝しております。

私の人生記録帖に「二度と同じ体験をしたくない事柄」として永久保存としておきます。

色褪せない記憶 ～阪神・淡路大震災

日本出版販売(株)大阪支店 新出晃子
 (日本出版販売 神戸支店勤務)

全ての始まりは未経験の大きな揺れと聞いたこともない地震響きでした。当時神戸支店は西明石にあり自宅が近かった私は、崩れている民家や、公衆電話に並ぶ人々を横目に自転車で会社へ急ぎました。会社の壁は剥がれ、大きな穴が開き、書架は倒れ全ての本が足の踏み場もなく散乱している状態でした。震えがとまらなかったのを覚えています。しかしこの地域の被害はとても小さいものだったのです。

この日から私は救援活動の拠点となった神戸支店で働くことが使命となりました。昼間は書店へ出向く救援部隊の準備や調整、帰宅難の社員寮探しと家財道具準備。夜はライフラインの止まった後輩たちを家に泊め、食事と風呂の世話。

通常業務など程遠い毎日で疲労のピークを越え

た状態でしたが誰もが生きていていることに感謝して頑張ったあの時。記憶やその思いは今も色褪せていません。

私は忘れない

日本出版販売(株) 神戸支店 笠井葉子

神戸市東灘区のマンション。ベッドにしがみついた。ジェットコースターに乗ったように大きくゆさぶられた。地面の奥底から鳴り響く地震の音が続く。3日間住居を離れず、近隣の方と過ごしたがその時の経験は忘れない。

1週間程して姫路経由で当時の西明石にあった日販神戸支店入り。既に応援者で会社は動いており、皆さんが奮闘しておられた。居住が神戸より東の社員・応援者の住居確保から食事をまかなうのも大変な日々。私は当時、総務係で社内業務だったが、男性社員は、神戸まで毎日被災した書店様支援。自転車で何時間もかけて神戸まで廻り、帰社した時はパンクした自転車で戻ってくる。神戸の状況の写真を見せてもらい、愕然。復興するのは何年も先の事と改めて感じていた。が、たくさんの方の支援と想定以上の街の力を感じながら復興が進む。人のパワーはすごい。

経験が、今の仕事の礎になっている

(株)トーハン 神戸支店 志儀晋介

私は阪神・淡路大震災が発生した平成7年の4月に入社しました。まだ神戸市内は震災の爪痕が残り、電車も走っていない状況だった為、東京で行われる入社式には神戸駅から六甲間を徒歩や代替バスにて新大阪まで行き、本社へ向かったことを思い出します。

研修後、神戸支店へ配属時は震災から約4ヶ月経過しており、震災当初の混乱は社員の間ではなく、被災された書店様の支援に飛び回る日々でした。

私も最初は運送会社様と一緒に荷台満載に積まれた被災本を国指定の処理場へ運ぶ作業を行いました。家屋の瓦礫等が散乱する処理場に行くと、必ず係の方が「この本を貰ってもいい?」と聞かれ、当時は本が貴重な娯楽であったのだと感じます。

震災当日を知る先輩方の話も当時よく耳にしました。須磨寺駅前にあった源氏書房様が震災で全壊し、店舗が山陽電鉄の線路に横たわっていた話、神戸支店の店売商品全てが棚から落ち、床一面に溢れ足の踏み場もなかったこと、また本館の建物にも柱自体に大きなヒビが入り、半壊状態という大惨事だったことを聞かされました。

また一方では、比較的被害の少なかった地域の書店様には、当時の支店があまり機能しておらず、多大なご迷惑をお掛けしてしまっていることが支店内では問題となっていました。

支店内には被災により自宅を失った人もいましたが、業務中は誰もが書店様のために今できることを精一杯やろうと考え動いたことを覚えています。

新入社員としてまだ右も左もわからない状態でしたが、書店の皆さんからありがとうと感謝の言葉を頂いた経験が今でも私の仕事に対する姿勢のベースにあり、これからも当時を忘れることなく、書店様はじめ多くの取引先との絆を大切にしたいと考えています。

忘れないこと、伝えることの大切さをかみしめる

市民まちづくり研究所所長 松本 誠

私は20年前、大震災で即日全壊した神戸・三

宮駅前の新聞会館で、地域政策を調査研究するシンクタンク業務に従事していたジャーナリストだった。一線の報道業務からすでに外れていたが、震災以来、被災の実態と復興への歩みを報告し討議するシンポジウムなどの膨大な集会に連日顔を出す一方、幾つかの市民サイドの復興計画づくりに関わり、自らも自身が編集発行する研究紀要に復興への歩みを書き続けた。全国各地に呼ばれて、話す機会も多くあった。

新聞社組織の中に居ても、現場取材に駆け回ることではなく、復興全体の動きを一步下がって俯瞰的に取り扱い、分析する立場にあったから、政治や経済、社会の変化とともに復興への流れがよく見えた。この震災の教訓をどう受けとめ、どのように後世に伝えていくか。新聞本来が持つ歴史を記録する機能と“伝道者”の役割を担う格好の位置にいたわけだ。「震災5年」「震災10年」の検証を市民検証研究会で出版し、『阪神・淡路大震災10年』（岩波新書）も書いた。

震災2ヶ月後の3月20日、東京でオウム真理教の地下鉄サリン事件が発生し、集中豪雨の報道体質を持つ在京マスメディアは、報道の質を一斉にオウムヘシフトした。近代的大都市の直下で起きた初めての巨大地震災害に世界の注目が集まっていたが、関東のマスメディアから阪神・淡路大震災の報道が消えた。節目の時期の周年報道はあったが、恒常的な震災報道は地元メディアに限定された。

震災直後、海路大阪へ出た際に、被災地とは異次元の奇妙な空気に違和感を感じて早々に立ち戻った経験がある。被災者と被災地は、被災現場の現実が世間から「忘れられる」ことが怖い。地下の坑道で落盤事故に遭い、地上との連絡が

途切れた場合の閉塞状態に置かれた人たちと似た心理状態になる。被災者と被災地にとって、忘れられることが最も不安であり、恐れる。

東日本大震災の現地に、震災以来何回か通っている。間もなく4年を迎えようとしているが、阪神の場合に比べて過疎地域の津波災害と原発災害が重なり、復興の足取りはとてつもなく遅い。広大な被災地にバラバラに暮らし、被災地外の遠く離れた遠距離避難の生活を余儀なくされている人たちも膨大な数に上る。そんな東北の被災者にとって「忘れられる」ことへの不安は、阪神に増して大きい。

20年前に身にしみて痛感したはずの、大震災の教訓が幾つかある。自然への畏敬を忘れず、科学や技術に過度に依存したまちづくりや暮らし方を改めること。集中依存型の社会と暮らし方から、自律分散型へ転換すること。経済効率優先から安全・安心優先の社会に変えること。参画と協働に基づく分権・自治の地域社会をつくること。戦後の高度成長型社会に慣れ親しんできた反省は、東日本大震災でさらにダメ押しされた。

ともすれば忘れがちな、こうした大震災の教訓を次代の人たちに伝えていく責任が、二つの大震災を体験した世代には重くのしかかっている。とりわけ、ジャーナリズムや出版文化を支える世界に生きてきた私たちには、その責任は大きい。兵庫県の書店組合が、震災20年誌をまとめて全国に発信する意義は、そこにある。

阪神・淡路大震災と東日本大震災を体験して、場合によっては迫りくる次の大震災にも遭遇するかもしれない私たちの世代には、とりわけその責任を痛感する。

兵庫県書店商業組合 年表(1995年~2014年)

西暦	平成	兵庫県書店商業組合と業界の動き	日本と世界の主な出来事/本屋大賞/ベストセラー
1995	平成 7	1月17日、阪神・淡路大震災(M7.3の大地震) 10月、本の学校大山緑陰シンポ開催(1999年まで毎年開催) 兵庫県加入書店数377店(全国11,205店)	3月、地下鉄サリン事件 Windows95発売 ベストセラー・松本人志『遺書』
1996	平成 8	但馬地区の書店で雑誌発売日励行本部・同実行合同委員会の調査が行われる 12月、近畿ブロックで「書店へ行こう」キャンペーン 日書連、著作権再販制度維持を文部省に申し入れ 366(10,967)	12月、ペルー日本大使公邸襲撃事件 7月~8月、アトランタオリンピック ベストセラー・春山茂雄『脳内革命』
1997	平成 9	5月、国際雑誌連合東京大会がアジアで初めて開催される 9月、日本書籍協会が、書誌情報検索ページを作成 10月、日書連近畿ブロック、「再販擁護市民大会」を開催 12月、日書連、再販擁護訴える100万人署名を国会に提出 363(10,555)	4月、消費税5%実施 6月、神戸連続児童殺傷事件の犯人逮捕 7月、香港中国に返還 11月、北海道拓殖銀行、山一証券破綻 ベストセラー・ピストロスマップ制作委員会編『ピストロスマップ完全レシビ』
1998	平成10	バーゲン本、販売始まる 356(10,176)	2月、長野冬季オリンピック 4月、明石海峡大橋開通 ベストセラー・池田大作『新・人間革命(1・2・3)』
1999	平成11	出版小売品規約施行 日書連、「地域振興券で本を買おう」呼びかけ 4月、全国縦断文化講演会、浅田次郎氏を招き姫路市に講演会開催 兵庫県、中小企業団体兵庫大会で優良組合として表彰を受ける 7月、電子書籍コンソーシアムが電子書籍プレ実験スタート 10月、TS流通協同組合発足 兵庫県でFAXネットワーク運用開始 344(9,869)	9月、東海村JCO臨界事故 ベストセラー・乙武洋匡『五体不満足』
2000	平成12	子ども読書年、各地でイベント開催 3月、神戸支部、「インターネットで何ができるか」をテーマにフォーラム開催 4月、講談社の訪問おはなし隊が兵庫県巡回 5月、兵庫県、有珠山噴火で被災した書店等に見舞金を贈る 330(9,406)	9月~10月、シドニーオリンピック 7月、九州・沖縄サミット 9月、三宅島噴火 ベストセラー・大平光代『だから、あなたも生きぬいて』
2001	平成13	2月、日書連、国会議員81名出席のもと再販擁護を採択 3月、公取委が再販制度存続と結論 8月、明石歩道橋事故 12月、鈴木書店破たん 318(8,853)	1月、中央省庁再編 3月、芸予地震 9月11日、アメリカで同時多発テロ発生 10月、アフガニスタン紛争ぼっ発 12月、愛子内親王誕生 ベストセラー・スベンサー・ジョンソン『チーズはどこへ消えた?』
2002	平成14	ポイントカード問題拡大 兵庫県組合第2支部が倒産出版社の商品の扱いについての要望書を提出 300(8,288)	2月、ソルトレイクシティ冬季オリンピック 4月、学校週5日制に 5-6月、2002 FIFAワールドカップ日韓開催 9月、小泉首相北朝鮮訪問 10月、北朝鮮拉致被害者5人帰国 ベストセラー・J.K.ローリング『ハリーポッターと賢者の石』『ハリーポッターと秘密の部屋』『ハリーポッターとアズカバンの囚人』『ハリーポッターと炎のゴブレット(上・下)』
2003	平成15	万引き防止へ、動き活発に 280(7,838)	2月、スペースシャトルコロンビア事故 3月、イラク戦争(2011年終結) 5月、宮城県沖地震 7月、宮城県北部地震 9月、十勝沖地震 ベストセラー・養老孟司『バカの壁』
2004	平成16	10月、台風23号で豊岡市などが被災 265(7,463)	第1回本屋大賞・小川洋子『博士の愛した数式』 8月、アテネオリンピック 10月、新潟県中越地震 12月、スマトラで地震 ベストセラー・J.K.ローリング『ハリーポッターと不死鳥の騎士団(上・下)』
2005	平成17	阪神・淡路大震災10年、各地で様々な行事開催 4月、JR福知山線脱線事故 5月、兵庫県が柳田邦男氏を招いて文化講演会開催 兵庫県の助成を得て、人材確保推進事業実施決定 11月、兵庫県、兵庫県より優良組合として表彰を受ける 253(7,038)	3月、福岡県西方沖地震 第2回本屋大賞・恩田陸『夜のピクニック』 ベストセラー・樋口裕一『頭がいい人、悪い人の話し方』

西暦	平成	兵庫県書店商業組合と業界の動き	日本と世界の主な出来事／本屋大賞／ベストセラー
2006	平成18	海文堂書店が、書皮友好協会主催第22回書皮大賞を受賞 2月、神戸空港開港 2月、兵庫組合、松寿高一氏を講師に経営セミナー「書店経営の展望と、そのすむべき道とは」を実施 2月、兵庫組合、「女性・子どもを守る110番の店」事業をスタート 12月、兵庫組合、IT関連の講習会とコープこうべで接客サービスのあり方を学ぶ研修会実施 12月末をもって、日書連共済会が解散 237(6,683)	2月、トリノ冬季オリンピック 第3回本屋大賞・リリー・フランキー「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」 9月、悠仁親王誕生 ベストセラー 藤原正彦「国家の品格」
2007	平成19	2月、兵庫組合、全三木金物卸協同組合と交流 7月、兵庫組合、日書連マーク研修会を井上書林で実施。その後、尼崎市が市内中学校19校で情報BOX(日書連MARC)を採用 230(6,330)	3月、能登半島地震 第4回本屋大賞・佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 7月、新潟県中越沖地震 10月、郵政民営化スタート ベストセラー 坂東眞理子「女性の品格 装いから生き方まで」
2008	平成20	2月、兵庫組合、「中小企業人材確保推進事業」の一環として、『新技術活用に関するレベルアップセミナー』を開催。講師は(株)アリエシステムの新原博昭氏 サン・ジョルディの日の企画で「本のしおり」作成、裏面には「女性・子どもを守る110番の店」を印刷 兵庫県の図書予算40%カット 210(5,869)	第5回本屋大賞・伊坂幸太郎「ゴールデンスランバー」 5月、中国四川省大地震(M7.2) 6月、岩手・宮城内陸地震 7月、洞爺湖サミット 8月、北京オリンピック 10月、世界金融危機、世界同時不況(リーマンショック) 12月、不況による製造業派遣切りで年越し派遣村 ベストセラー・J.K.ローリング「ハリー・ポッターと死の秘宝」
2009	平成21	2月、「万引防止実践講座」出席の理事が兵庫組合理事会で報告 4月、明石市で「ほんだいすぎ!プラン」実施 8月、兵庫県豪雨災害、佐用町など大きな被害を受ける 198(5,502)	1月、アメリカ、オバマ大統領就任 4月、メキシコ発新型インフルエンザ世界へ 第6回本屋大賞・湊かなえ「告白」 5月、裁判員制度スタート 8月、駿河湾沖地震 8月、政権交代 android版スマートフォン発売開始 ベストセラー・村上春樹「1Q84(1)」「1Q84(2)」
2010	平成22	電子書籍活発に。「電子書籍元年」ともいわれる 189(5,187)	国民読書年 2月、バンクーバー冬季オリンピック 第7回本屋大賞・沖方丁「天地明察」 5月、宮崎県で口蹄疫被害発生 6月、惑星探査機はやぶさ7年ぶり帰還 10月、チリで地下700mより33人救出 ベストセラー・岩崎夏海「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら」
2011	平成23	9月、兵庫組合、日書連の「ためほんくん」と電子書籍の講習会開催 11月、大阪で大商談会「BOOK EXPO」開催 11月、兵庫組合で、松本誠氏が「まちの本屋から始める町づくり」を講演 組合員増強へ案内冊子作成 182(4,946)	2月、ニュージーランドで直下型地震 3月、東日本大震災発生 東京電力福島第一原子力発電所事故 第8回本屋大賞・東川篤哉「謎解きはディナーのあとで」 7月、なでしこジャパン、FIFA女子ワールドカップ優勝 7月、テレビアナログ放送終了デジタル放送へ 10月、リビアのカダフィ大佐捕らえられ死亡 12月、世界人口が70億人突破 ベストセラー・東川篤哉「謎解きはディナーのあとで」
2012	平成24	書店での電子書籍販売、1月31日にスタート 5月、兵庫組合、講談社佐藤雅伸販売局長らを招き勉強会 兵庫組合、古事記をテーマに「読んで、聞いて、行ってみて 神話の世界古事記さんまい」実施 179(4,718)	第9回本屋大賞・三浦しをん「舟を編む」 5月、東京スカイツリー(634m)開業 7月~8月、ロンドンオリンピック 9月、尖閣諸島国有化 ベストセラー・阿川佐和子「聞く力」
2013	平成25	兵庫組合、サンジョルディの日Vol.1冊子作成 10月、11月、兵庫組合、黒田官兵衛をテーマに「読んで、聞いて、行ってみて 官兵衛さんまい」の陣(ブックフェア)、二の陣(講演会)を実施。 12月、尼崎支部、尼崎市内の特別学級に10万円相当の絵本寄贈(34回目) 170(4,459)	第10回本屋大賞・百田尚樹「海賊とよばれた男」 9月、2020年東京オリンピック開催決定 ベストセラー・近藤 誠「医者に殺されない47の心得」
2014	平成26	1月、兵庫組合、「官兵衛さんまい」三の陣(バスツアー)を実施。 兵庫組合、サンジョルディの日Vol.2冊子作成 書店と取次が「料理レシピ本大賞inJapan」創設 160(4,224)	4月、消費税率5%から8%へ 第11回本屋大賞・和田竜「村上海賊の娘」 9月、広島土砂災害 9月、御嶽山噴火

※書店数は、全国書店新聞4月発表のもの。ベストセラーはトーハン調べ。

阪神・淡路大震災20年ブックフェア出品の本

神戸新聞社編『被災者に寄り添って ～神戸新聞の震災報道～阪神・淡路大震災から東日本大震災へ』神戸新聞総合出版センター 本体1,500円

阪神・淡路大震災で被災し、震災報道に全力を傾けてきた神戸新聞社は、東日本大震災でも取材班を派遣し、震災を経験した新聞社ならではの視点で取材を続けています。両震災に関する神戸新聞の報道と、今後の災害に備えた記事をまとめた報道記録集。



神戸新聞社編『阪神・淡路大震災20年 報道記録』神戸新聞総合出版センター 本体1,500円

被災地の新聞社として、発生の日から様々な視点で報道を続けている神戸新聞。20年を機に当時の記憶を辿り、復興の過程を次代に伝えるために、発生直後からの紙面や写真記録など、これまでの記録を集大成します。

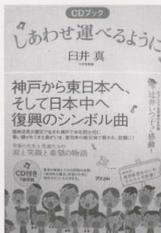


指田和子・鈴木びんご『あの日をわすれな はるかのひまわり』PHP研究所 本体1,300円

阪神・淡路大震災で妹を亡くした姉・いつかさんは、「突然の災害で家族を亡くしたつらい思いを誰にも味わってほしくないの、命の大切さや、支えあって生きることの大事さをわかってもらえたら…」と、震災の体験を語り継ぐ活動を続けています。

城島充『にいちゃんのランドセル 世の中への扉』講談社 本体1,200円

埼玉県さいたま市に、阪神・淡路大震災で亡くなったおにいちゃんのランドセルを背負って学校に通う、元気な小学2年生がいます。この物語は、命の大切さを真剣に考えている6人家族の本当にあったお話です。



臼井真『しあわせ運べるように CDブック』アスコム 本体1,524円

CDつき 阪神・淡路大震災で生まれ神戸で16年間大切に歌い継がれてきた曲が、東日本の被災地で歌われて話題に。音楽の先生と児童たちの涙と笑顔と希望の物語です。

笹原留似子『おもかげ復元師の震災絵日記』ポプラ社 本体1,200円

東日本大震災後、津波被害の激しかった沿岸地域で300人以上のご遺体をボランティアで復元した女性納棺師が描いた似顔絵と言葉。損傷した遺体を、在りし日の面影に復元するという特殊技能を持つ笹原さんの活動記録が涙を誘います。



三井康壽『死なない!死なせない!大震災から家族を守る!』世界文化社 本体1,000円

阪神・淡路復興対策本部事務局長だった防災のプロ・三井康壽氏が、家庭のための防災の心得を、備えや対応策とともに説き、行政がどう動くかまで解説している稀有な本です。

MAMA-PLUG『被災ママ812人が作った 子連れ防災実践ノート』角川書店 本体762円

育児雑誌や新聞で話題となった「被災ママ812人が作った子連れ防災手帖」の実践ノートが出来上がりました。どこから手をつけてよいかわからない防災も、このノートを使って進めればOK。

国崎信江・目黒公郎・福田岩緒『じしんのえほん こんなときどうするの?(地震防災えほん)』ポプラ社 本体1,200円

君がひとりである時に、地震がきたらどうしよう? どうなるのかな? どうしたらいいのかな? 通学路や自宅などの状況ごとに身の守りかたを伝える、親子で読む地震防災絵本。コピーして使えるサバイバルカード付。



大田堯『生命のきずな』偕成社 本体1,200円

なぜ、勉強するのだろうか? 自分の生きる道を、どう選ぶか? 生命は、なぜ尊いのか? 人間とは何か? そして、どう生きるか? 21世紀に生きる若者たちへ、いのちの絆を構築することの大切さを説きます。



原田マハ『翔ぶ少女』ポプラ社 本体1,500円

1995年、神戸市長田区。震災で両親を失った小学一年生のニケは、兄のイッキ、妹のサンクとともに、医師のゼロ先生に助けられた。復興へと歩む町で、少しずつ絆を育んでいく四人を待ち受けていたのは、思いがけない出来事だった。心温まる物語。

兵庫県書店商業組合 全会員名簿

(2014年11月末現在)

	書店名	代表者名	住所	電話番号	
第1支部	旬ひつじ書房	平松 二三代	〒658-0072 神戸市東灘区岡本 1-2-3	078-441-6869	
	㈱甲南堂	坂田 正美	〒658-0072 神戸市東灘区岡本 1-3-29	078-451-5700	
	本山宝盛館	斎藤 豊次郎	〒658-0072 神戸市東灘区岡本 2-13-19	078-453-3531	
	㈱ジュンク堂書店 住吉店	工藤 恭孝	〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町 1-2-1 住吉ターミナルビル 5F	078-854-5551	
	メトロ書店 神戸御影店	川崎 孝	〒658-0054 神戸市東灘区御影中町 3-998-5	078-858-7337	
	㈱文学館 六甲アイランド店	安東 興	〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中 2-13 アーバンメポート 2F	078-846-3610	
	㈱三宮ブックス	村田 耕平	〒651-0097 神戸市中央区布引町 3-2-1	078-251-2009	
	㈱ジュンク堂書店 三宮駅前店	工藤 恭孝	〒651-0096 神戸市中央区雲井通 6-1-15 サンシティビル 7F	078-252-0777	
	㈱ジュンク堂書店 三宮店	工藤 恭孝	〒650-0021 神戸市中央区三宮町 1-6-18	078-392-1001	
	ジャパンプックス	大滝 雅之	〒650-0014 神戸市中央区元町高架通 1-135	078-332-0512	
	㈱学友書房 神戸支店	長谷坂 憲史	〒650-0022 神戸市中央区元町通 5-4-12	078-341-0541	
	㈱大垣書店 ハーバーランド umie 店	大垣 守弘	〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1丁目 umie NORTH MALL 5F	078-382-7112	
	川池書房	原口 守	〒652-0045 神戸市兵庫区松本通 2-2-1	078-511-0759	
	㈱スター商会	木戸 晃洋	〒651-1111 神戸市北区鈴蘭台北町 1-5-2	078-591-1567	
	喜久屋書店 西鈴蘭台店	工藤 健一	〒651-1131 神戸市北区鈴蘭台北町 1-1-1 阪急共栄ストア 2F	078-595-2011	
	㈱アイヨ堂書店	桑山 満	〒653-0812 神戸市長田区長田町 2-16	078-691-2869	
	喜久屋書店 東急プラザ新長田店	工藤 健一	〒653-0038 神戸市長田区若松町 5-5-1 ジョイプラザ 2F	078-646-3015	
	㈱新文堂	藤井 剛	〒654-0051 神戸市須磨区月見山本町 1-9-23	078-731-3706	
	㈱井戸書店	森 忠延	〒654-0021 神戸市須磨区平田町 2-3-9	078-732-0726	
	博文堂書店	山崎 信子	〒654-0051 神戸市須磨区月見山本町 2-6-13	078-731-7814	
	喜久屋書店 妙法寺店	工藤 健一	〒654-0131 神戸市須磨区横尾 1-3 地下鉄妙法寺駅内	078-741-0458	
	流泉書房	大橋 洋子	〒654-0154 神戸市須磨区中落合 2-2-1	078-792-6007	
	喜久屋書店 名谷店	工藤 健一	〒654-0154 神戸市須磨区中落合 2-3-1	078-793-1603	
	㈱文進堂書店	山口 武司	〒655-0893 神戸市垂水区日向 1-4-1-123	078-708-0246	
	広文館	赤松 弘一	〒655-0027 神戸市垂水区神田町 2-17	078-707-6067	
	香山書店	香山 芳範	〒655-0038 神戸市垂水区星稜台 1-1-15	078-783-0586	
	㈱田村書店 伊川谷店	田村 定良	〒651-2113 神戸市西区伊川谷町有瀬 541-1	078-974-8231	
	喜久屋書店 神戸学園都市店	工藤 健一	〒651-2103 神戸市西区学園西町 1-4	078-797-3977	
	喜久屋書店 西神中央店	工藤 健一	〒651-2273 神戸市西区梶台 5-2-3 プレンティ 1 番館 3F	078-992-0020	
	ブックフォーラム 伊川谷店	工藤 健一	〒651-2111 神戸市西区池上 3-3-1 コーポデイス 3F	078-975-5666	
	兵庫県教育図書販売	乗船 高義	〒651-2135 神戸市西区王塚台 1-55-1	078-927-2358	
	㈱大和堂書店	大和 信夫	〒659-0084 芦屋市月若町 8-1	0797-22-3760	
	㈱ジュンク堂書店 芦屋店	工藤 恭孝	〒659-0092 芦屋市大原町 9-1 ラポルテ東館 3F	0797-31-7440	
中村書店	中村 克明	〒669-1533 三田市三田町 36-7	079-564-6405		
㈱あかね書房	今井 肇	〒669-1528 三田市駅前町 7-35	079-563-2408		
㈱オクショウ	奥 則夫	〒669-1529 三田市中央町 16-3	079-562-3030		
第2支部	ミナトヤ書店	林 成嘉	〒663-8204 西宮市高松町 17-10	0798-67-4226	
	ブックランドとおの 甲子園口店	東野 安純	〒663-8113 西宮市甲子園口 2-3-3 パルメーラ甲子園口	0798-66-6929	
	光文堂 甲子園店	高山 順彦	〒663-8113 西宮市甲子園口 3-21-12	0798-67-2910	
	なるお書店	堀 恭二	〒663-8184 西宮市鳴尾町 3-2-1	0798-47-2197	
	川畑書店	川畑 博文	〒663-8215 西宮市今津水波町 2-28	0798-22-4367	
	㈱宮脇書店 マルナカ西宮店	妻鹿 慎一郎	〒662-0923 西宮市浜松原町 21-1	0798-37-6230	
	ジュンク堂書店 西宮店	工藤 恭孝	〒663-8035 西宮市北口町 1-1 アクタ西宮西館 4F	0798-68-6300	
	ブックファースト エビスタ西宮店	中川 善博	〒662-0973 西宮市田中町 1-6	0798-37-1661	
	㈱文学館 伊丹ターミナル店	安東 興	〒664-0858 伊丹市西台 1-1-1 阪急伊丹駅ビル 3F	072-772-3708	
	わかばや書店	森村 和弘	〒664-0856 伊丹市梅ノ木 2-3-1	072-772-3670	
	いずみ文庫	藤田 茂高	〒664-0007 伊丹市北野 1-78	072-770-2512	
	㈱サンクス	滝内 恭博	〒664-0028 伊丹市西野 2-70	072-781-4100	
	TSUTAYA 阪急伊丹駅前店	濱本 輝夫	〒664-0851 伊丹市中央町 1-1-1	072-785-1722	
	辻本書店	辻本 和浩	〒665-0881 宝塚市山本東 2-9-6	0797-88-0525	
	ブックランドサンクス 宝塚ソリオ店	滝内 恭博	〒665-0845 宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ I GFB-110	0797-83-0311	
	ブックファースト 宝塚店	中川 善博	〒665-0845 宝塚市栄町 2-3-1 Gコレクション 阪急宝塚 1F	0797-83-1911	
	㈱宝塚書店	柴田 克也	〒665-0842 宝塚市川面 5-8-2	0797-87-2996	
	㈱みどり書房	島津 優	〒666-0116 川西市水明台 1-2-5	072-793-2196	
	大和堂書店	春名 洋志	〒666-0112 川西市大和西 2-3-7	072-794-3727	
	森田書店	森田 彰	〒666-0015 川西市小花 1丁目 22-8	072-759-3762	
	㈱田村書店 ジャスコ猪名川店	田村 定良	〒666-0257 川辺郡猪名川町白金 2-1 ジャスコ 2F	072-766-6776	
	支部 第3	㈱三和書房	中島 良太	〒660-0882 尼崎市昭和南通 7-161	06-6413-1112
		山崎書店	山崎 自子	〒660-0814 尼崎市杭瀬本町 2-12-18	06-6401-2598

	書店名	代表者名	住所	電話番号
第3支部	水沢書籍店	水沢 清太郎	〒660-0814 尼崎市杭瀬本町 2-18-4	06-6489-3319
	文学堂書店	金田 雅彦	〒660-0893 尼崎市西難波町 1-17-8	06-6416-3193
	南細見盛文堂	細見 昌和	〒660-0893 尼崎市西難波町 4-6-16	06-6481-2212
	英泉堂書店	本井伝 英夫	〒660-0071 尼崎市崇徳院 2-147	06-6411-5482
	いとう書店	井藤 ゆう子	〒660-0883 尼崎市神田北通 4-103-2	06-6413-1384
	ブックファースト 阪神尼崎店	木村 繁	〒660-0884 尼崎市神田中通 1-2-1 アマスタ アマセン 1F	06-6430-1701
	㈱ふたば書房 つかしん店	洞本 昌哉	〒661-0001 尼崎市塚口本町 4-8-1 つかしん 3F	06-6422-0905
	㈱アシーネ 塚口店	石井 仁	〒661-0012 尼崎市南塚口 2-1-3 ダイエー塚口衣料館 6F	06-6420-8141
	ナミサキ	浪崎 真	〒661-0012 尼崎市南塚口 8-65-18	06-6426-2214
	武庫書房	柴田 克也	〒661-0043 尼崎市武庫元町 2丁目 15-10	06-6432-6778
	小松書店	小松 恒久	〒661-0975 尼崎山下坂部 1-20-25	06-6499-7973
	ブックスキヨスク 尼崎店	兵頭 克彦	〒660-0808 尼崎市潮江 1-1-1 JR 尼崎駅構内	06-6481-9761
	おきな書房	森平 恒雄	〒661-0025 尼崎市立花町 1-5-16	06-6429-0525
	小林書店	小林 昌弘	〒661-0025 尼崎市立花町 2-3-17	06-6429-1180
	㈱田村書店 武庫之荘北店	田村 定良	〒661-0035 尼崎市武庫之荘 1-2-10	06-6433-7227
	㈱田村書店 南武庫之荘店	田村 定良	〒661-0033 尼崎市南武庫之荘 1-8-21-101	06-6434-1221
	ブックスタぶれっと	京戸 弘	〒661-0014 尼崎山上ノ島 1-20-11	06-6422-3849
	ムービースター	浜本 輝夫	〒661-0021 尼崎市名神町 2-3-18	06-6428-2085
	宮脇書店 アマゴッタ店	森 久継	〒660-0827 尼崎市西大物町 12-41	06-6482-5120
	第4支部	㈱木村書店	木村 稔	〒673-0885 明石市桜町 14-15
岡田書店		岡田 定雄	〒673-0866 明石市朝霧町 2丁目 1-17	078-918-3281
学友書房		長谷坂 憲文	〒673-0018 明石市西明石北町 3-7-6	078-927-5688
喜久屋書店 明石駅ビル店		工藤 健一	〒673-0891 明石市大明石町 1-1-23	078-914-7532
巖松堂書店		山根 金造	〒674-0058 明石市大久保町駅前 1-8-12	078-936-4069
森田書店		森田 満	〒674-0074 明石市魚住町清水 2184	078-942-1401
大書堂書店		三宅 節男	〒674-0092 明石市二見町東二見 409-17	078-942-4167
大林書店		大林 聖寛	〒673-0431 三木市本町 2-9-23	0794-82-3174
㈱井上書林		井上 喜之	〒670-0868 姫路市大野町 53-3	079-225-1141
㈱ジュンク堂書店 姫路店		工藤 恭孝	〒670-0914 姫路市豆腐町 222 プリエ姫路 2F	079-221-8280
第5支部	ブックスタジオ 姫路店	池田 一孝	〒670-0927 姫路市駅前町 188-1 JR 姫路駅内	079-284-0361
	南大塚書店	大塚 文晴	〒670-0927 姫路市駅前町 264	079-222-3963
	南和田書店	和田 理一	〒670-0922 姫路市二階町 20	079-222-2563
	㈱林書林	河田 健司	〒670-0996 姫路市土山 2-14-22	079-297-9323
	浅野書店	浅野 一郎	〒670-0906 姫路市博労町 123	079-293-0635
	黒田書店	黒田 浩一	〒670-0012 姫路市本町 68-170 大手前第1ビル	079-223-0245
	北口書店	北口 暁	〒670-0086 姫路市田寺三丁目 12-24	079-298-3123
	喜久屋書店 姫路店	工藤 健一	〒670-0052 姫路市今宿字面白 1952 ザ・モール姫路 4F	079-295-1016
	宮本書店	宮本 義也	〒670-0802 姫路市砥堀三権上 133-7	079-264-5454
	山地書店	山地 芳枝	〒671-0101 姫路市大塩町 454-1	079-254-0137
	南三上尚文堂	三上 一充	〒672-8053 姫路市飾磨区栄町 20	079-235-7681
	楽学書館 Begin	山本 貴文	〒672-8079 姫路市飾磨区今在家 7丁目 88	079-233-8888
	森 書店	森 敏	〒672-8092 姫路市飾磨区英賀春日町 2-1-18	079-236-0310
	改発書店	改発 蒸	〒671-1234 姫路市網干区新在家 860	079-272-0239
	交和書房	南洲 雅之	〒671-1234 姫路市網干区新在家 1407	079-272-0927
	南大杉広文堂	大杉 誠三	〒671-1108 姫路市広畑区城山町 2-20	079-239-4042
	㈱森井書房	森井 宏和	〒671-1143 姫路市大津区天満 417	079-237-8400
	ム弓書林	井上 弘敏	〒671-1133 姫路市大津区吉美小招	079-273-9534
	Begin 誠心堂	溝内 雅人	〒670-0084 姫路市東辻井 3-5	079-292-1881
	TSUTAYA 姫路広峰店	福本 真平	〒670-0882 姫路市広峰 1丁目 1-30	079-286-7771
	文姫堂	福島 豊	〒672-0101 姫路市家島町真浦本町	079-325-0054
	福岡書房	柴田 幹夫	〒679-2204 神崎郡福岡町西田原 1316-5	0790-22-6366
	南伏見屋商店	竹内 鳳三	〒679-4172 たつの市上川原 79	0791-62-0091
木南書店	木南 敏明	〒679-4313 たつの市新宮町新宮	0791-75-0212	
かみや向文堂	長谷 渉	〒679-4313 たつの市新宮町新宮 104-1	0791-75-0345	
南清文堂書店 福祉大学店	鞍谷 精紀	〒678-0255 赤穂市新田 380-3	0791-46-2511	
南井筒書店	井筒 基之	〒678-0239 赤穂市加里屋 46-3 池内ビル 1F	0791-45-0992	
南赤穂書房	相生 英樹	〒678-0239 赤穂市加里屋 52-4	0791-42-2516	
㈱原田商事	原田 尚典	〒678-0051 相生市那波大浜町 13-18	0791-22-1215	
ブックフォーラム 相生店	三浦 隆志	〒678-0031 相生市旭町 3-7-6 コーポティス相生店内	0791-23-6665	
南寺田屋書店	淮田 昭夫	〒678-0031 相生市旭町 3-11-5	0791-22-5131	
TSUTAYA 相生店	坂東 範人	〒678-0021 相生市赤坂 1丁目 3-5	0791-24-3712	

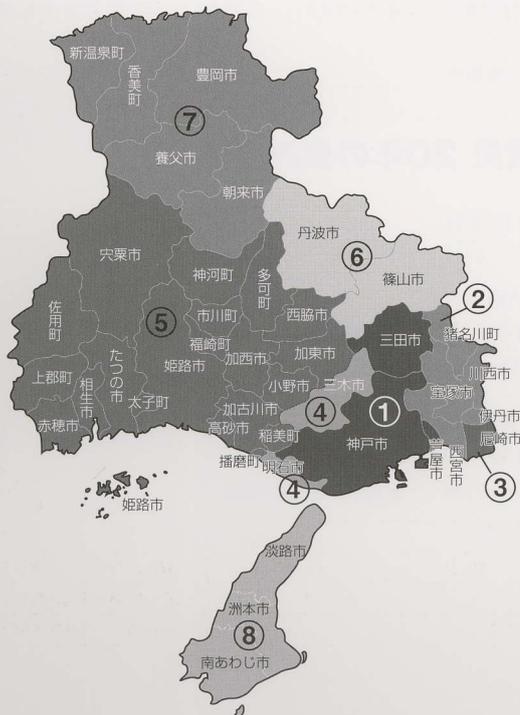
	書店名	代表者名	住所	電話番号
第5支部	(株)安井書店 BOOKLAND 店	安井 唯善	〒 671-2545 兵庫県山崎町中井 95-1	0790-64-2051
	前田書店	前田 好彦	〒 679-5301 佐用郡佐用町佐用 2904-15	0790-82-2210
	いかるが書店	内海 典幸	〒 671-1561 揖保郡太子町鶴 1323-3	079-277-0300
	TSUTAYA 太子店	森下 秀樹	〒 671-1521 揖保郡太子町東出 250-5	079-275-8011
	(株)詳文館	福田 正弘	〒 675-0067 加古川市加古川町河原 211-1	079-421-2586
	(株)伊國屋書店 加古川店	井筒 清隆	〒 675-0065 加古川市加古川町篠原町 21-8 ヤマトヤシキ加古川 6F	079-427-3311
	ふたば書店	伊達 慧	〒 675-0101 加古川市平岡町新在家 253-18 東加古川総合市場	079-422-2374
	(株)吉村書房	吉村 長重郎	〒 675-0101 加古川市平岡町新在家 270-9	079-424-3033
	(株)ユーカリ書房	森本 正二	〒 675-0111 加古川市平岡町二俣 762-10	079-437-1986
	新興書房	夜久 義数	〒 676-0038 高砂市高砂町栄町 373-7 サンモール高砂内	079-443-2800
	ブックセンターすばる	小池 雄一郎	〒 677-0044 西脇市上野 185-1	079-523-0306
	バルネット 小野店	西浦 淳	〒 675-1378 小野市王子町 888-1	0794-63-8619
	(株)梶原書店	梶原 悠紀夫	〒 673-1400 加東市社町 764-1	0795-42-0006
	(株)西村書店	田中 俊宏	〒 675-2311 加西市北条町横尾 285-1	0790-42-5008
	細田書店	細田 廣治	〒 679-1113 多可郡多可町中区中村町 11	0795-32-0073
松田書店	松田 昭代	〒 679-1111 多可郡多可町中区鍛冶屋 160-1	0795-32-0346	
第6支部	(資)谷書店	谷 隆三	〒 669-3309 丹波市柏原町柏原 162	0795-72-0012
	(資)小山書店	小山 芳広	〒 669-2336 篠山市魚屋町 8	079-552-0019
	森本書房	森本 寛	〒 669-2325 篠山市河原町 173-1	079-552-0125
第7支部	(株)ブックスにしき	竹内 明	〒 668-0037 豊岡市寿町 2-7	0796-23-0389
	ハヤカワ書店	早川 隆	〒 668-0033 豊岡市中央町 15-12	0796-23-2345
	ブックス・トム	石田 光正	〒 668-0055 豊岡市昭和町 1-26	0796-22-1471
	(株)TSUTAYA アピックス豊岡店	北村 篤	〒 668-0031 豊岡市大手町 7-30	0796-24-1122
	サワダ書店	沢田 章	〒 669-6101 豊岡市城崎町湯島 256	0796-32-2227
	(株)ガンピー エヴァ ネットワーク	田原 吉美	〒 669-5341 豊岡市日高町国分寺 211-1	0796-42-5666
	(株)文森堂	森田 一成	〒 669-5311 豊岡市日高町日吉 23-18	0796-42-1392
	浅田書店	浅田 辰弘	〒 668-0224 豊岡市出石町本町 100	0796-52-2050
	東京堂書店	浦野 敏美	〒 669-5203 朝来市和田山町寺谷 720	079-672-2070
	浜田文栄堂	浜田 栄三郎	〒 667-0112 養父市養父市場 610	079-665-0010
	やぶの本や	斎藤 貴明	〒 667-0115 養父市上筒 153-1 Y タウン	079-664-1616
	小谷書店	小谷 俊作	〒 667-1311 美方郡番美町村岡区村岡 2399	0796-94-0422
第8支部	(株)坂本文昌堂	坂本 昌文	〒 656-0025 洲本市本町 5 丁目 3-6	0799-24-5900
	富貴堂	富田 譲	〒 656-1301 洲本市五色町都志万才 922-1	0799-33-0144
	(株)すみ孫	片山 佳則	〒 656-2132 淡路市志筑新島 10-6	0799-62-0019
	仲井書店	仲井 恵美子	〒 656-1711 淡路市富島 1211	0799-82-0015
	宮脇書店 津名一宮店	岡崎 安次	〒 656-1511 淡路市郡家 82 番地の 1	0799-80-5077
	畠中書店	畠中 鈴代	〒 656-1511 淡路市郡家 283-10	0799-85-2457
	カルチュアバンクシティオ 三原店	小池 雄一郎	〒 656-0401 南あわじ市円行寺 138	0799-42-6390
	福岡南陽堂	福岡 温子	〒 656-0502 南あわじ市福良乙 196	0799-52-0047

兵庫県書店商業組合

事務局

〒 674-0058 明石市大久保町駅前 1-8-12 巖松堂書店内

電話 078・936・4069 FAX 078・935・4069



あとがき

20年は一つの節目ではあるけれど、あまりに長い歲月です。

この20年の間、東日本大震災、御嶽山の噴火、広島のと砂災害など多くの自然災害があり、事件は毎日のように起きています。新聞やテレビで、次から次に起こる災害や事件の報道が、これでもかというくらい発信されます。そして、目と耳から新しい情報がインプットされるたびに古い情報が削除されるがごとく、人々の記憶は薄れていくのです。しかし、当事者にとっては忘れられない出来事であり、忘れてはならない記憶です。1995年に生まれた子どもは、本年成人式を迎えます。当時若手であった我々も、ベテランと呼ばれ、定年を迎える日が刻々と近づいてきています。また、鬼籍に入られた諸先輩方も大勢おられます。20年とはそれほど長い年月です。そして、この時を逃せば20年前の出来事をまとめることは、二度とできないかもしれません。

阪神・淡路大震災から20年を迎えるに当たって、今一度当時を振り返り、しっかりと記憶にとどめ、次世代に語り継いでいきたい。そして、ご支援をいただいた多くの方々、温かい言葉や励ましの言葉を頂戴した多くの方々に、感謝の気持ちをお伝えさせていただくため、この冊子をまとめさせていただきました。

阪神・淡路大震災の経験が、皆様の心の片隅にいつまでも残り、さらに、今後起きるであろう自然災害時に、少しでもお役に立てれば幸いです。最後に、この冊子を作成するに当たってご協力をいただいた方々に、心より感謝申し上げます。

(三和書房 中島良太)

編集協力(順不同)

兵庫県 日本書店商業組合連合会 (株)ポプラ社 日本出版販売(株) (株)トーハン (株)大阪屋 神和会
兵庫県教科書(株) (株)文化通信社 (株)新文化通信社 (株)神戸新聞社

阪神・淡路大震災20年誌作成事業チーム(50音順)

編集長：中島良太(三和書房)

上田 薫(大阪屋) 重野美信(日本出版販売) 森 忠延(井戸書店)

森 文吾(トーハン) 村田耕平(三宮ブックス) 山根金造(兵庫県書店商業組合理事長、巖松堂書店)

デザイン 小林デザイン事務所

阪神・淡路大震災 20年の歩み

2015年1月17日 第1刷発行

編集・発行 兵庫県書店商業組合

〒674-0058 明石市大久保町駅前1-8-12 巖松堂書店内

電話 078-936-4069 FAX 078-935-4069

制作・印刷 株式会社 神戸新聞総合印刷

〒650-0444 神戸市中央区東川崎町1-5-7

電話 078-362-7140 FAX 078-361-7552

© 2015, Printed in Japan

<ひょうご安全の日推進事業助成対象事業>

この事業は、「阪神淡路20年事業」としてひょうご安全の日推進県民会議の助成を受けて実施しています。

1.17は忘れない



阪神淡路20年